サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書
三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査

2020

国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所
（公財）岩手県文化振興事業団
サンニヤⅢ遺跡発掘調査報告書

三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査
序

本県には、旧石器時代をはじめとする1万箇所を超する遺跡や貴重な埋葬文化財が数多く残されております。それらは、地域の風土と歴史が生み出した遺産であり、本県の歴史や文化、伝統を正しく理解するのに欠くことのできない歴史資料です。同時に、それらは県民のみならず国民的財産であり、将来にわたって大切に保存し、活用を図らなければならないません。

一方、豊かな郷土づくりには公共事業や社会資本整備が必要ですが、それらの開発にあたっては、環境との調和はもちろんのこと、地中に埋もれ、その土地とともにある埋蔵文化財保護との調和も求められるところです。当事業団埋蔵文化財センターは、設立以来、岩手県教育委員会の指導と調整のもとに、開発事業によってやむを得ず消滅する遺跡の発掘調査を行い、その調査の記録を保存する措置をとってまいりました。

本報告書は、三陸沿岸道路建設に関連して、平成28-30年度の延べ14ヶ月間に発掘調査を実施したサンニャ丘遠洋の成果をまとめたものです。調査の結果、縄文時代の住居場の特徴が分かる貴重な資料を得ることが出来ました。

本書が広く活用され、埋蔵文化財についての関心や理解につながると同時に、その保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査並びに報告書の作成にあたり、ご理解とご協力をいただきました国土交通省三陸国道事務所、洋野町教育委員会をはじめとする関係各位に対し、深く感謝の意を表します。

令和2年3月

公益財団法人岩手県文化振興事業団
理事長 高橋嘉行
例　言

1 本報告書は、岩手県九戸郡御荷町村第25地割に所在するサンニャIII遺跡の発掘調査結果を収録したものである。

2 本遺跡の調査は、地元沿岸道路施設に伴う事前の緊急発掘調査である。調査は国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所と岩手県文化財保護事業団長崎文化財センターが実施した。

3 岩手県遺跡台帳における遺跡番号と今回の調査における遺跡番号は以下のとおりである。

   遺跡番号: IF48-2250
   遺跡番号: S N III -16(平成28年度)・S N III -17(平成29年度)・S N III -18(平成30年度)

4 発掘調査期間・面積・担当者は以下のとおりである。

   平成28年度
   調査期間: 平成28年9月15日～12月16日
   調査面積: 14,000㎡
   担当者: 平野善枝・菊池貴広・高橋義介・森 裕樹・佐々木あゆみ

   平成29年度
   調査期間: 平成29年4月7日～11月29日
   調査面積: 17,200㎡
   担当者: 菊池貴広・川又 晋・佐々木あゆみ・遠藤 修

   平成30年度
   調査期間: 平成30年4月4日～9月30日
   調査面積: 2,000㎡
   担当者: 菊池貴広・野中裕貴・出町拓之

5 室内整理期間・担当者は以下のとおりである。

   平成28年度
   整理期間: 平成28年11月1日～平成29年3月31日
   担当者: 平野善枝・森 裕樹・佐々木あゆみ

   平成29年度
   整理期間: 平成29年11月1日～平成30年3月31日
   担当者: 菊池貴広・佐々木あゆみ・遠藤 修

   平成30年度
   整理期間: 平成30年12月1日～平成31年3月31日
   担当者: 菊池貴広・星 雅之・川又 晋

6 本報告書の執筆は、第1章を国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所、第2章を菊池・八木・森、第3章を菊池・八木、第4章を菊池・八木・佐々木・遠藤・森、第5章を菊池、第6章を菊池が担当し、全体の編集は菊池が行った。

7 各種委託業務は次の機関に委託した。
   火山灰分析: パリノ・サーヴェイ株式会社
   石材・石質鑑定: 花崗岩研究会
基準点測量：株式会社ダイヤ
航空写真撮影：東邦航空株式会社

8. 今回の発掘調査で出土した遺物と諸記録は、全て岩手県立埋蔵文化財センターにおいて保管している。
9. これまでに、調査成果の一部を当埋蔵文化財センターのホームページ、調査概報等で公表しているが、本書の記載内容を正式なものとする。

凡例

1. 遺構図中で記載した座標値は平面直角座標第X系（世界測地系）に基づく。
2. 遺構図等の方位は真北を表示している。
3. 遺構図の縮尺は、隠し穴状遺構：1／50、土坑：1／50、焼土遺構：1／20、炭焼：1／40を基本とする。
4. 項位名として、基本層序にはローマ数字を、遺構の覆土にはアラビア数字を使用している。
5. 土層の記載には、辻本水産省農林水産技術会議事務局編修『新版標準土型図』を使用した。
6. 遺物実測図の縮尺は、土器・縄石器：1／3、歯片石器：1／2を基本とする。
7. 遺構図版及び遺物図版中に述べている場合は、個々に凡例を付している。
8. 土木地理院発行地形図を編集掲載したものは、図中に図幅名と縮尺を付した。
9. テフラの名称については、十和田中層テフラをTo-Cu、十和田南部浮石をTo-Nbと省略した箇所がある。
目 次

I 調査に至る経過 ................................................................. 1

II 立地と環境 ....................................................................... 1
   1 遺跡の位置と立地 .......................................................... 1
   2 周辺の地形 .................................................................. 4
   3 基本層序 ...................................................................... 6
   4 周辺の遺跡 .................................................................. 6

III 調査・整理の方法 .......................................................... 9
   1 野外調査 ..................................................................... 9
   2 室内整理 ..................................................................... 10

IV 検出された遺構 ............................................................. 17
   1 調査経過 ...................................................................... 17
   2 検出遺構 ...................................................................... 17

V 出土遺物 ........................................................................ 62
   1 遺構に伴う遺物 ........................................................... 62
   2 遺構外出土遺物 ........................................................... 62

VI 総括 .............................................................................. 75
   1 隈し穴遺構について ....................................................... 75
   2 打製石斧について ........................................................ 76
   3 遺構全体について ........................................................ 76

VII 火山灰分析 ................................................................. 84
   報告書抄録 ...................................................................... 133
### 図版目次

<table>
<thead>
<tr>
<th>図版</th>
<th>内容</th>
<th>頁码</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第1図</td>
<td>墳墳の位置図</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>第2図</td>
<td>墳墳周辺の図Phoenix地域分図</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>第3図</td>
<td>墳墳周辺の地形図</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>第4図</td>
<td>墳墳断面図</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>第5図</td>
<td>墳墳縁の変化図</td>
<td>8</td>
</tr>
<tr>
<td>第6図</td>
<td>砂疊配置図</td>
<td>11</td>
</tr>
<tr>
<td>第7図</td>
<td>砂疊配置図</td>
<td>12</td>
</tr>
<tr>
<td>第8図</td>
<td>砂疊配置図拡大図（1）</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>第9図</td>
<td>砂疊配置図拡大図（2）</td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>第10図</td>
<td>砂疊配置図拡大図（3）</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>第11図</td>
<td>砂疊配置図拡大図（4）</td>
<td>16</td>
</tr>
<tr>
<td>第12図</td>
<td>1・2号室室壁・1・2号室室壁長図</td>
<td>34</td>
</tr>
<tr>
<td>第13図</td>
<td>1～3号室室壁長図</td>
<td>35</td>
</tr>
<tr>
<td>第14図</td>
<td>4～6号室室壁長図</td>
<td>36</td>
</tr>
<tr>
<td>第15図</td>
<td>7～9号室室壁長図</td>
<td>37</td>
</tr>
<tr>
<td>第16図</td>
<td>10～12号室室壁長図</td>
<td>38</td>
</tr>
<tr>
<td>第17図</td>
<td>13～15号室室壁長図</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td>第18図</td>
<td>16～18号室室壁長図</td>
<td>40</td>
</tr>
<tr>
<td>第19図</td>
<td>19～21号室室壁長図</td>
<td>41</td>
</tr>
<tr>
<td>第20図</td>
<td>22～24号室室壁長図</td>
<td>42</td>
</tr>
<tr>
<td>第21図</td>
<td>25～27号室室壁長図</td>
<td>43</td>
</tr>
<tr>
<td>第22図</td>
<td>28～30号室室壁長図</td>
<td>44</td>
</tr>
<tr>
<td>第23図</td>
<td>31～33号室室壁長図</td>
<td>45</td>
</tr>
<tr>
<td>第24図</td>
<td>34～36号室室壁長図</td>
<td>46</td>
</tr>
<tr>
<td>第25図</td>
<td>37～39号室室壁長図</td>
<td>47</td>
</tr>
<tr>
<td>第26図</td>
<td>40～42号室室壁長図</td>
<td>48</td>
</tr>
<tr>
<td>第27図</td>
<td>43～45号室室壁長図</td>
<td>49</td>
</tr>
<tr>
<td>第28図</td>
<td>46～47号室室壁長図</td>
<td>50</td>
</tr>
<tr>
<td>第29図</td>
<td>48～50号室室壁長図</td>
<td>51</td>
</tr>
<tr>
<td>第30図</td>
<td>51～53号室室壁長図</td>
<td>52</td>
</tr>
<tr>
<td>第31図</td>
<td>54～55号室室壁長図</td>
<td>53</td>
</tr>
<tr>
<td>第32図</td>
<td>56～58号室室壁長図</td>
<td>54</td>
</tr>
<tr>
<td>第33図</td>
<td>59～61号室室壁長図</td>
<td>55</td>
</tr>
<tr>
<td>第34図</td>
<td>62～64号室室壁長図</td>
<td>56</td>
</tr>
<tr>
<td>第35図</td>
<td>65～69号室室壁長図</td>
<td>57</td>
</tr>
<tr>
<td>第36図</td>
<td>1～4号室室壁長図</td>
<td>58</td>
</tr>
<tr>
<td>第37図</td>
<td>5～8号室室壁長図</td>
<td>59</td>
</tr>
<tr>
<td>第38図</td>
<td>9～14号室室壁長図</td>
<td>60</td>
</tr>
<tr>
<td>第39図</td>
<td>15～18号室室壁長図</td>
<td>61</td>
</tr>
<tr>
<td>第40図</td>
<td>打製片刀分類図</td>
<td>64</td>
</tr>
<tr>
<td>第41図</td>
<td>出土遺物（1）</td>
<td>65</td>
</tr>
<tr>
<td>第42図</td>
<td>出土遺物（2）</td>
<td>66</td>
</tr>
<tr>
<td>第43図</td>
<td>出土遺物（3）</td>
<td>67</td>
</tr>
<tr>
<td>第44図</td>
<td>出土遺物（4）</td>
<td>68</td>
</tr>
<tr>
<td>第45図</td>
<td>出土遺物（5）</td>
<td>69</td>
</tr>
<tr>
<td>第46図</td>
<td>出土遺物（6）</td>
<td>70</td>
</tr>
<tr>
<td>第47図</td>
<td>出土遺物（7）</td>
<td>71</td>
</tr>
<tr>
<td>第48図</td>
<td>出土遺物（8）</td>
<td>72</td>
</tr>
<tr>
<td>第49図</td>
<td>砂疊構造主な図</td>
<td>78</td>
</tr>
<tr>
<td>第50図</td>
<td>土坑分類図</td>
<td>78</td>
</tr>
<tr>
<td>第51図</td>
<td>周辺遺跡の円形図</td>
<td>78</td>
</tr>
<tr>
<td>第52図</td>
<td>周辺遺跡の円形図</td>
<td>79</td>
</tr>
<tr>
<td>第53図</td>
<td>周辺遺跡の円形図</td>
<td>80</td>
</tr>
<tr>
<td>第54図</td>
<td>周辺遺跡の円形図</td>
<td>81</td>
</tr>
<tr>
<td>第55図</td>
<td>周辺遺跡の円形図</td>
<td>82</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 表日次

<table>
<thead>
<tr>
<th>表</th>
<th>内容</th>
<th>頁碼</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>第1表</td>
<td>周辺遺跡一覧</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>第2表</td>
<td>墳墳室壁長図・土坑観察表・室壁長観察表</td>
<td>19</td>
</tr>
<tr>
<td>第3表</td>
<td>土坑観察表</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>第4表</td>
<td>石器・陶器観察表</td>
<td>73</td>
</tr>
<tr>
<td>第5表</td>
<td>石器観察表</td>
<td>74</td>
</tr>
<tr>
<td>第6表</td>
<td>墳墳室壁長図集一覧</td>
<td>78</td>
</tr>
<tr>
<td>第7表</td>
<td>周辺遺跡の用具出土地点表</td>
<td>83</td>
</tr>
</tbody>
</table>

岩穴住居跡
巻頭カラー写真図版目次

巻頭カラー写真図版 1 遠時全景
巻頭カラー写真図版 2 火山動分析採択土層・5号土坑斜面断面

写真図版目次

写真図版 1 調査区現況…………………91
写真図版 2 基本層序…………………92
写真図版 3 1号坑室…………………93
写真図版 4 2号坑室…………………94
写真図版 5 1・2号坑室上部構、1・2号坑室下部構…………95
写真図版 6 3・6号坑室上部構、3・6号坑室下部構…………96
写真図版 7 7・10号坑室上部構、7・10号坑室下部構…………97
写真図版 8 11・14号坑室上部構、11・14号坑室下部構…………98
写真図版 9 15・18号坑室上部構、15・18号坑室下部構…………99
写真図版10 19・22号坑室上部構、19・22号坑室下部構…………100
写真図版11 23・26号坑室上部構、23・26号坑室下部構…………101
写真図版12 27・30号坑室上部構、27・30号坑室下部構…………102
写真図版13 31・34号坑室上部構、31・34号坑室下部構…………103
写真図版14 35・38号坑室上部構、35・38号坑室下部構…………104
写真図版15 39・42号坑室上部構、39・42号坑室下部構…………105
写真図版16 43・44・48・49号坑室上部構、43・44・48・49号坑室下部構…………106
写真図版17 45号坑室上部構、45号坑室下部構…………107
写真図版18 46号坑室上部構、46号坑室下部構…………108
写真図版19 47号坑室上部構、47号坑室下部構…………109
写真図版20 50・53号坑室上部構、50・53号坑室下部構…………110
写真図版21 54・57号坑室上部構、54・57号坑室下部構…………111
写真図版22 58・61号坑室上部構、58・61号坑室下部構…………112
写真図版23 62・65号坑室上部構、62・65号坑室下部構…………113
写真図版24 66・69号坑室上部構、66・69号坑室下部構…………114
写真図版25 1・4号土坑………………91
写真図版26 8・15・18号土坑…………116
写真図版27 5号土坑…………………117
写真図版28 6号土坑…………………118
写真図版29 7号土坑…………………119
写真図版30 9号土坑…………………120
写真図版31 10号土坑………………121
写真図版32 11号土坑………………122
写真図版33 14号土坑………………123
写真図版34 16号土坑………………124
写真図版35 17号土坑………………125
写真図版36 検出状況…………………126
写真図版37 検出状況…………………127
写真図版38 出土遺物（1）……………128
写真図版39 出土遺物（2）……………129
写真図版40 出土遺物（3）……………130
写真図版41 出土遺物（4）……………131
写真図版42 出土遺物（5）……………132
Ⅰ 調査に至る経過

サンニャⅢ遺跡は、一般国道45号三陸沿岸道路事業（待報〜待上）の事業区域内に存在することから発掘調査を実施することとなったものである。

三陸沿岸道路は、宮城、岩手、青森の各市の太平洋沿岸を結ぶ延長350kmの自動車専用道路で、東日本大震災からの早期復興に向けたリーディングプロジェクトとして、平成23年度にこれまで事業化されていた区間も含め、全線事業化された復興道路である。

当該遺跡に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、平成28年8月21日付け国土交通省一調第15号により、三陸沿岸道路事務所長から岩手県教育委員会生涯学習文化課長あてに試掘調査を依頼し、平成28年6月27日～6月29日、8月1日～8月5日に試掘調査を行い、平成28年9月6日付け教生第849号により、工事に先立って発掘調査が必要と回答がなされたものである。

その結果を踏まえて、岩手県教育委員会と協議を行い、平成28年4月1日付けで公益財団法人岩手県文化振興事業団と委託契約を締結し、発掘調査を実施することとなった。

（国土交通省東北地方整備局三陸国道事務所）

Ⅱ 立地と環境

1 遺跡の位置と立地

サンニャⅢ遺跡が所在する洋野町は、岩手県沿岸部最北端に位置し、南は久慈市、西は軽米町、北は青森県三戸郡上戸町に隣接する。平成18年1月1日に旧種市町と旧大野村が合併し、総面積は302.92ha、総人口は16,846人（平成31年1月1日時点）を数える。町域の現況は山林が20.70haと町域の約7割を占め、標高100mを境に西部高原地域と東部海岸地域に区分されている。夏季、西部高原地域は東部海岸地域と比較して気温4〜5℃高く、東部海岸地域は春から夏に発著な変化（暖風）の影響で暖かいパララクが発生し、湿度が高く日照時間が短い特徴がある。

サンニャⅢ遺跡は、JR五戸線種市駅から西に約1.2km、川尻川右岸の標高82m前後に立地する。北緯40°24′26″、東経141°42′9″付近に位置する。川尻川は遺跡から直線距離約1.6kmで河口となる。地図上では、国土地図院発行の2万5千分の1地形図「種市」KN-54-18-6-2に含まれる。

2 周辺の地形

サンニャⅢ遺跡周辺の旧種市町は、線米町・旧大野村との町域をなす潮間帯（種市岳740.1m）、久慈平岳（706.3m）及び海成段丘によって形成された南北に連なる地形配列・表層地質をなしている。海成段丘は、海側の低い段丘から順に種市段丘・白前段丘で、現在の国道45号線は種市段丘上の白前段丘接点近くに南北に作られ、三陸沿岸道路はより高台面にあたる白前段丘上に建設される予定である。
第1図 遺跡位置図
3 基本層序

第4図は、調査区A〜D地点の土層である。層序は上位からI〜Ⅳ層に大別される。遺構検出面は、基本層序A地点付近がⅤ層、B地点付近がⅣ層、C地点付近がⅢ層、D地点付近がⅢ層の各上面である。（第7図）。

A地点

Ⅰa層 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締密（褐色土ブロック20%含く斑状をなす）
Ⅰb層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締やや密（白色漂石繊粒微量に含む）
Ⅱ層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締中（白色漂石繊粒微量に含む）
Ⅲ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締中
Ⅳa層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締やや密（直径1mm褐色土粒5%含く）
Ⅳb層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締やや密（直径2mm褐色土粒20%含く）
Ⅴ層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 締密（直径2〜3mm褐色土粒50%含く）
Ⅵ層 10YR3/4暗褐色 シルト 粘性強 締密（直径2〜3mm褐色土粒3%含く）

B地点

Ⅰ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締やや密（白色漂石繊粒微量に含む）
Ⅱ層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締中（白色漂石繊粒微量に含む）
Ⅲ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締中
Ⅳ層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 締密（直径2〜3mm褐色土粒50%含く）
Ⅴ層 10YR5/8黄褐色 シルト 粘性弱 締密（十和田八戸デフラ）
Ⅵ層 10YR4/4褐色 粒土 粘性強 締密（喜館デフラ）

C地点

Ⅰ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締やや密（白色漂石繊粒微量に含む）
Ⅱ層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締中（白色漂石繊粒微量に含む）
Ⅲ層 10YR2/1黒色 シルト 粘性強 締中
Ⅳ層 10YR2/2黒褐色 シルト 粘性弱 締やや密
Ⅴ層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 締密（直径2〜3mm褐色土粒50%含く）
Ⅵ層 10YR5/8黄褐色 シルト 粘性弱 締密（十和田八戸デフラ）

D地点

Ⅰ層 耕層（盛土）
Ⅱ層 10YR1.7/1黒色 シルト 粘性強 締中（白色漂石繊粒微量に含む）
Ⅲ層 10YR3/3暗褐色 シルト 粘性強 締密（直径2〜3mm褐色土粒50%含く）
Ⅳ層 10YR5/8黄褐色 シルト 粘性弱 締密（十和田八戸デフラ）

A・B・C地点のⅡ・Ⅲ層には十和田中殿デフラが粒状に、A地点のⅤ層・B地点のⅣ層・C地点のⅤ層には十和田南部漂石デフラが層状に含まれる。A地点のⅥ層、B地点のⅤ層、C地点のⅥ層、D地点のⅣ層が十和田八戸デフラ、またB地点のⅥ層が喜館火山灰層に比定される。

5号土坑底面を確認するため土坑底面にトレーニングを設置後、層位ごとに試料を採取し分析を依頼した（夢見カラ―写真図版No.2）。この結果、十和田八戸デフラについてはユニットが形成されていることが確認された（第7章 サンニャⅢ遺跡の火山灰分析）。

-
4 周辺の遺跡（第5図 第1表）

平成31年3月現在、岩手県遺跡情報検索システムに登録されている洋野町内の遺跡は219遺跡である。そのうち、サンニャⅢ遺跡近隣の遺跡を抽出したものが第5図である。ここでは、図に示した遺跡位置図をもとに縄文時代から中世の各時代を概観する。

縄文時代

集落跡は、石倉遺跡(16)、サンニャⅠ遺跡(24)、サンニャⅠ遺跡(26)、板橋Ⅱ遺跡(30)、ゴッソール遺跡(32)、南鹿蠣Ⅰ遺跡(38)が挙げられ、後期前半の集落跡が多い傾向がうかがえる。集落跡と種別が異なる西平大Ⅰ遺跡(2)では、後期前半の配石遺構と織地層が確認されている。

狩猟場は、平内Ⅱ遺跡(3)、サンニャⅠ遺跡(24)、荒津内遺跡(31)、ゴッソール遺跡(32)、南鹿蠣Ⅰ遺跡(38)、板橋Ⅱ遺跡(30)、板橋遺跡(36)が挙げられる。近年の発掘調査では、集落跡の性格をもつ一方、狩猟場の性格をもって複合遺跡として確認される傾向がある。また、本遺跡で出土している「打製石斧」と同類のものが前述した遺跡でも出土している。

弥生時代

集落跡は、平内Ⅱ遺跡(3)で弥生時代前期の堅穴住居2棟、北白川遺跡(42)で弥生時代中期の堅穴住居1棟が確認されている。

古代

登録されている遺跡は、北平内Ⅱ遺跡(8)、石倉遺跡(16)、川手遺跡(27)、大久保遺跡(37)である。各遺跡で土器片が採取されている。近年の調査においては鹿蠣浜Ⅰ遺跡(40)で集落跡が確認されている。

中世

城館跡は、小手野沢館(28)、板橋館(34)で屋根郭などが確認されている。

第2章に関わる引用・参考文献

岩手県教育委員会発行
2016『岩手県内遺跡発掘調査報告書（平成26年度 復興関係）』岩手県文化財調査報告書第145集
(公財)岩手県文化振興事業団発行
1996『ゴッソール遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第169集
2001『ゴッソール遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
2017『北平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第673集
2018『北平内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第687集
検市町教育委員会発行
2004『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』検市町埋蔵文化財調査報告書第1集
矢野町教育委員会発行
2013『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』矢野町埋蔵文化財調査報告書第1集
2015『平内Ⅱ遺跡発掘調査報告書』矢野町埋蔵文化財調査報告書第2集
<table>
<thead>
<tr>
<th>No.</th>
<th>遺跡名</th>
<th>種別</th>
<th>時代</th>
<th>地図位置等</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>桜花Ⅱ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>西平内Ⅰ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>平内Ⅱ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>北平内Ⅴ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>北平内Ⅰ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>北平内Ⅴ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>北平内Ⅳ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>北平内Ⅲ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>北平内Ⅱ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>北平内Ⅰ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>北平内Ⅰ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（後期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>平内Ⅰ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>平内Ⅱ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>平内Ⅲ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>15</td>
<td>平内Ⅳ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>16</td>
<td>平内Ⅴ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>17</td>
<td>平内Ⅵ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>18</td>
<td>平内Ⅶ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>19</td>
<td>平内Ⅷ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>20</td>
<td>平内Ⅸ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>21</td>
<td>平内Ⅹ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>22</td>
<td>平内Ⅺ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>23</td>
<td>平内Ⅻ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>24</td>
<td>平内ⅰ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>25</td>
<td>平内ⅱ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>26</td>
<td>平内ⅲ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>27</td>
<td>平内ⅳ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>28</td>
<td>平内ⅴ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>29</td>
<td>平内ⅵ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>30</td>
<td>平内ⅶ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>31</td>
<td>平内ⅷ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>32</td>
<td>平内ⅸ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>33</td>
<td>平内ⅹ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>34</td>
<td>平内ⅺ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>35</td>
<td>平内ⅻ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>36</td>
<td>平内ⅼ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>37</td>
<td>平内ⅽ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>38</td>
<td>平内ⅾ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>39</td>
<td>平内ⅿ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>40</td>
<td>平内ⅰⅰ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>41</td>
<td>平内ⅰⅱ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
<tr>
<td>42</td>
<td>平内ⅰⅲ</td>
<td>散地</td>
<td>新石</td>
<td>岩土器（前期）</td>
<td>平成23年度新発見（2011）</td>
</tr>
</tbody>
</table>
第5図 周辺の遺跡
III 調査・整理の方法

1 野外調査

（1）調査区の区割り設定

調査区画の設定は、平面直角座標第X系のX = 45840．000 Y = 73540．000を遺跡の原点とした。座標原点を起点として、遺跡全体を一边40×40mの大区画に区割りを行い、さらに大区画を4×4 mの小区画に細分した。西から東側にアルファベットの大文字A～H、北から南側にローマ数字I～IXを付した。小区画は西から東側にアルファベットのa～j、北から南側に数字の1～10を与えている。調査区の名称は、大区画と小区画の組み合わせてIA1a、IA10aというように呼称した。

遺跡の基準点1〜4と補点1の平面直角座標値は以下のとおりである。

- 基準点1 X = 45785.383 Y = 73740.639 H = 51.366
- 基準点2 X = 45725.056 Y = 73757.686 H = 52.445
- 基準点3 X = 45609.035 Y = 73728.044 H = 59.943
- 基準点4 X = 45633.408 Y = 73610.797 H = 51.839
- 補点1 X = 45697.288 Y = 73606.894 H = 48.472

（2）礫掘りと遺構検出

岩手県教育委員会生涯学習文化財課が実施した試掘結果に基づき、試掘掘削面に名義しながら調査を開始した。試掘結果を確認しながら重機を使用して礫掘りを行い、表土から遺構検出面上層まで掘り下げ、その後入力で遺構検出を行った。

（3）遺構の命名

遺構名は検出された遺構ごとに順に番号に付して、1号隠し穴状遺構、1号土坑のように命名した。遺構の過程で遺構でないと判断したものについては、野外調査・室内整理作業の混乱を避けるために欠番とした。

（4）遺構の精査と実測

遺構精査は、二分法を原則とした。個々の遺構は埋土の堆積状況、遺構全景の撮影を行い、断面図は土手で、平面図は電子平板によって記録を行った。遺構外の遺物はグリッドと出土層位を記録して取り上げた。

（5）写真撮影

写真撮影は6×9判モノクロームフィルムカメラ（FUJI 6SW690III）1台とデジタル一眼レフカメラ（Canon EOS 5D）1台で行った。撮影では、日付・遺構名などを記した撮影カードを写しこみ、室内整理作業に用いた。この他、調査終了時の平成28年12月12日、回転翼機（ヘリコプター）による航空写真撮影を行った。
（6）体験学習

平成29年11月2日に洋野町立種中学校一学年50名が来訪し、遺構探査・検査などの体験をした。

2 室内整理

（1）遺構図面の整理

野外調査時に計測した電子平板（抵キュービック「遺構くん」システム）のデータを用いて作図した平面図と、野外作業員が作図した断面図を遺構ごとに分類・点検・修正後に第二原図（修正図面）の作成、トレース、図版作成の順に作業を行った。平成28年度調査の1・2号発掘、1・2号焼土遺構、1～4号土坑・1～3号試し穴状遺構の図版はデジタルトレースによって遺構修正図・図版の作成を行った。平成29・30年度調査の5号〜18号土坑・40〜69号試し穴状遺構は、デジタルトレースは使用せず、マイラー用紙で第2図作成し、手作業でトレース・図版作成を行った。野外で撮影した遺構写真は、遺構ごとに分類・整理を行い、その中から代表的な写真を選んで写真図版を作成した。

（2）出土物の整理

出土遺物は洗浄を行い、種別毎に分類して袋に入め、袋毎に重量計測を行った。その後、遺物注記・接合作業を経て、本書掲載分と不掲載分に選別、掲載分は種別毎に仮番号を付して登録作業を行った。その後、実測・拓本・点検・修正、トレース作業を行い、図版を作成した。仮番号は最終的に掲載番号に付け替えた。本書への掲載は、土器に関しては、遺構外の口縁部・底部は全点掲載した。石器は概ね全体器形が把握できるものを優先して掲載した。

（3）写真撮影と整理

野外調査時の記録写真等は、6×9判モノクローム写真はネガとともにアルバムに貼付し、デジタルカメラデータは遺構毎に個別フォルダにまとめデータを格納した。遺構写真図版の原稿はデジタルデータを編集して作成している。

遺物写真は、当センター写真室にて撮影技師がデジタル一眼レフ（Canon EOS1 Mark II）にて撮影した。
第7図 造構配置図
第8図 適構配置図拡大図（1）
第11図 造構配置図拡大図 (4)
IV 検出された遺構

1 調査経過

平成28年度は9月15日から重機による表土掘削を行い、10月3日から作業員を増員して遺構検出作業を行った。11月2日から遺構精査を開始し、遺構精査は12月16日に完了し同日作業終了。12月12日に航空写真撮影を行った。

平成29年度は4月12日から重機による表土掘削を行った。調査区外に残土を頻出することができなかったことから、調査区北側を残土掘削場とし、4月17日から調査可能な南側の検出を行った。9月1日の精査を終えた後、10月4日から、10月4日から調査区北側に置いた残土を調査終了した南側調査区（調査完了区域）に移動させ、10月16日から調査を再開し11月29日に終了した。

平成30年度は4月5日から4月23日にかけて表土掘削を行い、その後検出を行った。調査区南側は工事ヤードとして使用されていたことから、調査を一旦中断し、8月20日から9月7日にかけて南端の表土掘削を行い、その後検出・精査を再開し、9月30日に終了した。

2 検出遺構（第12-39図、写真図版3-35）

調査で検出した遺構は、焼土遺構2基、炭窯2基、溝状及び穴状遺構69基、土坑16基である。遺構は土河田南側浮石テフラン堆積層（基本層序AのV層・基本層序BのIV層・基本層序CのV層・基本層序DのIII層）上に検出されている。調査区東側の基本層序AのIV〜VI層上で検出されたものは1・2号炭窯、1・2号焼土遺構、1〜40・44・59〜63・67号溝及び穴状遺構、1〜9・15〜17号土坑、調査区東側の基本層序BのIV層上で検出されたものは41〜43・45〜52号溝及び穴状遺構、調査区西側の基本層序CのIII層上で検出されたものは53〜58・64〜66・68号溝及び穴状遺構、10・13・14号土坑、調査区南側の基本層序DのIII層上で検出されたものは69号溝及び穴状遺構である。

（1）炭窯

1号炭窯（第12図 写真図版3）

III D 3 i・III D 3 j グリッドに位置する。基本層序AのIV層で検出した。形状は径円形で、規模は420×122cmである。深さは10cmである。時期は近世の遺構と考えられる。

2号炭窯（第12図 写真図版4）

III D 1 h・III D 1 i グリッドに位置する。基本層序AIII〜IV層で検出した。形状は径円形で、規模は180cm×102cmである。深さは28cmである。時期は近世の遺構と考えられる。

（2）焼土遺構

1号焼土遺構（第12図 写真図版5）

II E 1 a グリッドに位置する。基本層序AのV層上面上において、赤褐土の不明瞭な円形のプランとして検出した。規模は35×27cm。厚さは10cmである。時期は検出面から縄文時代と考えられる。
2号焼土遺構（第12図 写真図版5）

II D 7 グリッドに位置する。基本層AのVI層上面上において、赤褐色土の不明瞭な円形のプランとして検出した。規模は84×43cmである。厚さは最大10cmである。焼土上面上から遺物番号2～4が出土している。時期は遺物から縄文時代を弥生時代と考えられる。

（3）隠し穴状遺構（第13～38図、写真図版6～24、第2表）

検出された隠し穴状遺構の総数は69基である。検出面は、遺構プランが明瞭に把握できる十和田南部浮石堆積層上面上である。遺構構築の時期は、66号隠し穴状遺構における調査区境界の断面観察でII層から掘り込まれた痕跡を確認したことから（位置は調査区西側・基本層Z地点付近）、II層が形成された時期より新しいと考えられるが、詳細な時期を特定することは出来なかった。隠し穴状遺構の調査は、主に矩軸方向断面で埋土の堆積状況を記録し、長軸はシェルベンション断面図示している。なお、45～47・52号隠し穴状遺構では、詳細な堆積状況を確認する目的で長軸方向での半截を試みた。結果として、開口部の閉塞に関連した構造物、残置された杭・逆茂木等の痕跡は確認されなかった。半截時の作業量が増大したため、長軸での半截は上記の4基にとどめている。

（4）土 坑（第38～39図、写真図版27～35、第2表）

検出された土坑の総数は16基である。副穴を伴うもの11基と伴わないもの5基の2種に大別することが出来る。副穴を伴う土坑には埋土土器に十和田中酸テフラが認められるもの（5・6・9・13・14号土坑）がある。テフラの堆積状況から十和田南部浮石堆積層より、十和田中酸テフラ層下以前に構築された遺構と考えられる。埋土に十和田中酸テフラが認められないが、副穴を伴う土坑についても同時期のものと判断している。性格は隠し穴として機能していたものと考えられる。

前記以外の土坑の時期・性格については不明である。時期は縄文時代の遺構と考えられる（15号土坑は、62号隠し穴状遺構に載る）。
### 第2表 陥し穴模様・土坑観察表

<table>
<thead>
<tr>
<th>道構名</th>
<th>1号陥し穴状造構</th>
<th>2号陥し穴状造構</th>
<th>3号陥し穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>III D 6 j・7 i</td>
<td>III D 9 i・9 J</td>
<td>IV E 2 b・2 c</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>VI層</td>
<td>VI層</td>
<td>VI層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>平面形</td>
<td>平面形</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>V字形</td>
<td>V字形</td>
<td>U字形</td>
</tr>
<tr>
<td>破壊</td>
<td>開口部径 (m)</td>
<td>4.40 × 0.36</td>
<td>3.50 × 0.16</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>0.96</td>
<td>0.72</td>
<td>0.63</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N−55°−E</td>
<td>N−62°−E</td>
<td>N−79°−W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>7層に細分した。黑色土・褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。 7層に細分した。黑色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。 8層に細分した。黑色土・褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>平均傾斜</td>
<td>平均傾斜</td>
<td>平均傾斜</td>
</tr>
<tr>
<td>縦</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>道構名</th>
<th>4号陥し穴状造構</th>
<th>5号陥し穴状造構</th>
<th>6号陥し穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>IV E 3 a・4 a</td>
<td>II E 5 h・6 h</td>
<td>II E 6 i</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>V〜VI層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>平面形</td>
<td>平面形</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>V字形</td>
<td>V字形</td>
<td>V字形</td>
</tr>
<tr>
<td>破壊</td>
<td>開口部径 (m)</td>
<td>短軸0.80</td>
<td>2.91 × 0.52</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>0.89</td>
<td>0.59</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N−21°−E</td>
<td>N−66°−W</td>
<td>N−84°−W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>8層に細分した。黑色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。 3層に細分した。黑色土・褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。 3層に細分した。黑色土・褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>平均傾斜</td>
<td>平均傾斜</td>
<td>平均傾斜</td>
</tr>
<tr>
<td>縦</td>
<td>14</td>
<td>14</td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>遊歩名</td>
<td>7号隠し穴状造構</td>
<td>8号隠し穴状造構</td>
<td>9号隠し穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>Ⅱ E 7 j・8 j</td>
<td>Ⅱ E 3 i</td>
<td>Ⅱ G 5 a</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>深状</td>
<td>深状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>U字形</td>
<td>U字形</td>
<td>U字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>口 潟 径 (m)</td>
<td>口 潟 径 (m)</td>
<td>口 潟 径 (m)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>2.81×0.96</td>
<td>3.86×0.40</td>
<td>2.47×0.34</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>1.16</td>
<td>1.20</td>
<td>0.93</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N-84° W</td>
<td>N-75° W</td>
<td>N-69° W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>2層に細分化した。暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分化した。黑色土・壁面底層土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>3層に細分化した。黒褐色土・壁面底層土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>東側に傾斜</td>
<td>底が平坦</td>
<td>底が平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>?</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>頂端オーバーハング</td>
<td>頂端オーバーハング</td>
<td>頂端オーバーハング</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>遊歩名</th>
<th>10号隠し穴状造壇</th>
<th>11号隠し穴状造壇</th>
<th>12号隠し穴状造壇</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>Ⅲ F 3 j・3 f</td>
<td>Ⅲ F 3 i・3 j・4 j</td>
<td>Ⅲ F 3 f・9 g</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>深状</td>
<td>深状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>U字形</td>
<td>U字形</td>
<td>U字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>口 潟 径 (m)</td>
<td>口 潟 径 (m)</td>
<td>口 潟 径 (m)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>3.69×0.86</td>
<td>2.90×0.43</td>
<td>3.15×0.52</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>1.58</td>
<td>0.83</td>
<td>1.02</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N-82° W</td>
<td>N-74° W</td>
<td>N-84° W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>5層に細分化した。暗褐色土・壁面底層土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分化した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>4層に細分化した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>底が平坦</td>
<td>底が平坦</td>
<td>底が平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>16</td>
<td>16</td>
<td>16</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>7</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>頂端オーバーハング</td>
<td>頂端オーバーハング</td>
<td>頂端オーバーハング</td>
</tr>
<tr>
<td>地槽名</td>
<td>13号陥し穴状造構</td>
<td>14号陥し穴状造構</td>
<td>15号陥し穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>------------------</td>
<td>------------------</td>
<td>------------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>Ⅲ E 3 h - 3 i</td>
<td>Ⅲ E 3 i</td>
<td>Ⅲ E 10 f</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形: 濃状</td>
<td>平面形: 濃状</td>
<td>平面形: 濃状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形: Ⅴ字形</td>
<td>断面形: Ⅴ字形</td>
<td>断面形: Ⅴ字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口部径 (m) 2.57 x 0.62</td>
<td>開口部径 (m) 2.96 x 0.40</td>
<td>開口部径 (m) 2.43 x 0.52</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>1.11</td>
<td>1.12</td>
<td>1.32</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N - 62° - W</td>
<td>N - 77° - W</td>
<td>N - 25° - W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>3層に細分した。黒褐色土・暗褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>7層に細分した。黒褐色土・壁面堆積土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分した。黒褐色土・壁面堆積土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>前穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>傾斜</td>
<td>ほど平面</td>
<td>ほど平面</td>
<td>南東側に傾斜</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>17</td>
<td>17</td>
<td>17</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>9</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>冒険オーバーハング</td>
<td>冒険オーバーハング</td>
<td>冒険オーバーハング</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>地槽名</th>
<th>16号陥し穴状造構</th>
<th>17号陥し穴状造構</th>
<th>18号陥し穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>Ⅳ E 10 h - 10 i</td>
<td>Ⅳ E 2 h</td>
<td>Ⅲ G 4 a - 4 b</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>Ⅵ層</td>
<td>Ⅵ層</td>
<td>Ⅵ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形: 濃状</td>
<td>平面形: 濃状</td>
<td>平面形: 濃状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形: Ⅴ字形</td>
<td>断面形: Ⅴ字形</td>
<td>断面形: Ⅴ字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口部径 (m) 2.88 x 0.36</td>
<td>開口部径 (m) 2.92 x 0.49</td>
<td>開口部径 (m) 3.77 x 0.46</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>0.59</td>
<td>0.72</td>
<td>1.38</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N - 81° - E</td>
<td>N - 86° - W</td>
<td>N - 82° - W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>7層に細分した。黑色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分した。黑色土・壁面堆積土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分した。黒褐色土・壁面堆積土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>前穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>傾斜</td>
<td>ほど平坦</td>
<td>ほど平坦</td>
<td>ほど平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>18</td>
<td>18</td>
<td>18</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
<td>9</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>冒険オーバーハング</td>
<td>冒険オーバーハング</td>
<td>冒険オーバーハング</td>
</tr>
<tr>
<td>地区名</td>
<td>19号間し穴状造構</td>
<td>20号間し穴状造構</td>
<td>21号間し穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅢF 6g・6h・7h</td>
<td>ⅢF 2a・2b</td>
<td>ⅢF 3a・3b</td>
</tr>
<tr>
<td>採出面</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅳ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>深宕形</td>
<td>深宕形</td>
</tr>
<tr>
<td>開口部径（m）</td>
<td>3.82×0.42</td>
<td>3.32×0.68</td>
<td>3.38×0.52</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ（m）</td>
<td>1.18</td>
<td>1.44</td>
<td>1.28</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N−53°−W</td>
<td>N−66°−E</td>
<td>N−85°−W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>4層に細分化した。黒褐色土・黑色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分化した。黒褐色土・黒鉄土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分化した。黒褐色土・黒鉄土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>場面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>19</td>
<td>19</td>
<td>19</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>10</td>
<td>10</td>
<td>10</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>各端オーバーハンジ</td>
<td>各端オーバーハンジ</td>
<td>各端オーバーハンジ</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>地区名</th>
<th>22号間し穴状造構</th>
<th>23号間し穴状造構</th>
<th>24号間し穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅢE 2e・2f</td>
<td>ⅢE 3i・4i</td>
<td>ⅢE 10j・ⅣE 1j</td>
</tr>
<tr>
<td>採出面</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅳ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>深宕形</td>
<td>深宕形</td>
</tr>
<tr>
<td>開口部径（m）</td>
<td>2.20×0.35</td>
<td>2.80×0.42</td>
<td>3.25×0.58</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ（m）</td>
<td>0.48</td>
<td>0.82</td>
<td>1.00</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N−82°−W</td>
<td>N−2°−W</td>
<td>N−60°−E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>3層に細分化した。にぶい褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>5層に細分化した。黑色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分化した。黑色土・黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>場面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>20</td>
<td>20</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>10</td>
<td>11</td>
<td>11</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>各端オーバーハンジ</td>
<td>各端オーバーハンジ</td>
<td>各端オーバーハンジ</td>
</tr>
<tr>
<td>地溝名</td>
<td>25号隠し穴状造構</td>
<td>26号隠し穴状造構</td>
<td>27号隠し穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>V E 10 i • V E 1 i • 1 j</td>
<td>V F 9 f • 10 f</td>
<td>D F 10 d • 10 e</td>
</tr>
<tr>
<td>採出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形</td>
<td>Y字形</td>
<td>Y字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>関口部径 (m)</td>
<td>3.54 x 1.14</td>
<td>3.26 x 0.4</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>深さ (m)</td>
<td>1.48</td>
<td>0.86</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N - 60° - W</td>
<td>N - 50° - E</td>
<td>N - 75° - W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>9層に等分した。黄色土・暗褐色土を主体に構成される。 自然堆積と思われる。</td>
<td>3層に等分した。黑色土を主体に構成される。 自然堆積と思われる。</td>
<td>7層に等分した。褐色土・暗褐色土を主体に構成される。 自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>埋面</td>
<td>北西側に傾斜</td>
<td>周囲平坦</td>
<td>周囲平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図形</td>
<td>21</td>
<td>21</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>11</td>
<td>11</td>
<td>12</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両側オーバーハンジ</td>
<td>両側オーバーハンジ</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>地溝名</th>
<th>28号隠し穴状造構</th>
<th>29号隠し穴状造構</th>
<th>30号隠し穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>V E 7 j • V F 7 a</td>
<td>V F 5 f • 5 e</td>
<td>D F 8 e • 8 f</td>
</tr>
<tr>
<td>採出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形</td>
<td>U字形</td>
<td>Y字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>関口部径 (m)</td>
<td>3.58 x 0.70</td>
<td>3.26 x 0.38</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>深さ (m)</td>
<td>1.24</td>
<td>0.71</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N - 80° - W</td>
<td>N - 66° - E</td>
<td>N - 61° - E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>12層に等分した。褐色土を主体に構成される。 自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に等分した。黑色土・褐色土を主体に構成される。 自然堆積と思われる。</td>
<td>7層に等分した。黑色土・暗褐色土を主体に構成される。 自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>埋面</td>
<td>左側傾斜</td>
<td>周囲平坦</td>
<td>両側傾斜</td>
</tr>
<tr>
<td>図形</td>
<td>22</td>
<td>22</td>
<td>22</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
<td>12</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両側オーバーハンジ</td>
<td>両側オーバーハンジ</td>
<td>両側オーバーハンジ</td>
</tr>
<tr>
<td>道橋名</td>
<td>31号斜し穴状造構</td>
<td>32号斜し穴状造構</td>
<td>33号斜し穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>-----------------</td>
<td>-----------------</td>
<td>-----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅣF 6 b・7 b</td>
<td>ⅣF 5 a・5 h</td>
<td>ⅣF 2 c・3 c</td>
</tr>
<tr>
<td>椙出面</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
</tr>
<tr>
<td>棟構関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形状</td>
<td>Y字形</td>
<td>Y字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口部径</td>
<td>2.82×0.52</td>
<td>3.52×0.88</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>深さ (m)</td>
<td>1.06</td>
<td>1.34</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N−65°−E</td>
<td>N−77°−E</td>
<td>N−47°−W</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>5層に細分した。黒色土・壁面自落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>9層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>9層に細分した。黒色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>深面</td>
<td>平頂平坦</td>
<td>平頂平坦</td>
<td>平頂平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図面</td>
<td>23</td>
<td>23</td>
<td>23</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
<td>13</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>道橋名</th>
<th>34号斜し穴状造構</th>
<th>35号斜し穴状造構</th>
<th>36号斜し穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅣF 7 a・8 a</td>
<td>ⅣF 4 j</td>
<td>ⅣG 7 a・2 a</td>
</tr>
<tr>
<td>椙出面</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
<td>Ⅴ層</td>
</tr>
<tr>
<td>棟構関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形状</td>
<td>U字形</td>
<td>U字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口部径</td>
<td>3.68×0.48</td>
<td>3.68×0.54</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>深さ (m)</td>
<td>1.20</td>
<td>1.53</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N−16°−W</td>
<td>N−68°−W</td>
<td>N−78°−E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>7層に細分した。黒色土・黒褐色土・壁面自落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分した。黒褐色土・壁面自落土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>4層に細分した。黒色土・黒褐色土・壁面自落土を主体に構成される。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>深面</td>
<td>平頂平坦</td>
<td>西側に傾斜</td>
<td>平頂平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図面</td>
<td>24</td>
<td>24</td>
<td>24</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>13</td>
<td>14</td>
<td>14</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>高端オーバーハング</td>
<td>高端オーバーハング</td>
<td>高端オーバーハング</td>
</tr>
<tr>
<td>遠景名</td>
<td>37号隅穴状造構</td>
<td>38号隅穴状造構</td>
<td>39号隅穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>----------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅣF３b</td>
<td>ⅣF6a・7a</td>
<td>ⅣE5i・5j</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>Ⅵ層</td>
<td>Ⅵ層</td>
<td>Ⅵ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形: 溝状</td>
<td>平面形: 溝状</td>
<td>平面形: 溝状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>開口部直径 (m²)</td>
<td>3.56 x 0.32</td>
<td>3.32 x 0.46</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>1.32</td>
<td>0.98</td>
<td>0.88</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N−59°−W</td>
<td>N−29°−E</td>
<td>N−39°−W</td>
</tr>
<tr>
<td>墓土</td>
<td>3層に細分したもの。黑色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分したもの。黑色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分したもの。黑色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>健全</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>開口部直径 (m²)</td>
<td>25</td>
<td>25</td>
<td>25</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>14</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>遠景名</th>
<th>40号隅穴状造構</th>
<th>41号隅穴状造構</th>
<th>42号隅穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅣG1j</td>
<td>ⅥF6e・6f</td>
<td>ⅥF8e・9d</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅵ層</td>
<td>Ⅵ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形: 溝状</td>
<td>平面形: 溝状</td>
<td>平面形: 溝状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形: U字形</td>
<td>断面形: U字形</td>
<td>断面形: U字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口部直径 (m²)</td>
<td>短軸0.39</td>
<td>3.54 x 0.94</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>0.37</td>
<td>1.34</td>
<td>0.94</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N−30°−E</td>
<td>N−63°−E</td>
<td>N−84°−E</td>
</tr>
<tr>
<td>墓土</td>
<td>4層に細分したもの。黑色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分したもの。黑色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>3層に細分したもの。黑色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>健全</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>開口部直径 (m²)</td>
<td>26</td>
<td>26</td>
<td>26</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
<td>15</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>場所名</td>
<td>43号筒円柱状造構</td>
<td>44号筒円柱状造構</td>
<td>45号筒円柱状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>VI 8h・8i</td>
<td>IV B 8g</td>
<td>IV B 1b・1c</td>
</tr>
<tr>
<td>植出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>V字形</td>
<td>V字形</td>
<td>V字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>円口部径</td>
<td>円口部径</td>
<td>円口部径</td>
</tr>
<tr>
<td>(m)</td>
<td>3.14×0.58</td>
<td>3.14×0.84</td>
<td>4.15×0.62</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ(m)</td>
<td>1.2</td>
<td>0.86</td>
<td>0.98</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N-80°-E</td>
<td>N-87°-E</td>
<td>N-73°-E</td>
</tr>
<tr>
<td>墓土</td>
<td>4層に細分化した。黒褐色を主体に構成される。自然堆積と考えられる。</td>
<td>6層に細分化した。黒褐色を主体に構成される。自然堆積と考えられる。</td>
<td>7層に細分化した。黒褐色を主体に構成される。自然堆積と考えられる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>27</td>
<td>27</td>
<td>27</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>16</td>
<td>16</td>
<td>16</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両縁オーバーハング</td>
<td>未定</td>
<td>未定</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>場所名</th>
<th>46号筒円柱状造構</th>
<th>47号筒円柱状造構</th>
<th>48号筒円柱状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>VI 10a</td>
<td>VI D 9f・9g・10f・10g</td>
<td>VI D 10e・10f・11e・1f</td>
</tr>
<tr>
<td>植出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>V字形</td>
<td>V字形</td>
<td>V字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>円口部径</td>
<td>円口部径</td>
<td>円口部徑</td>
</tr>
<tr>
<td>(m)</td>
<td>2.97×0.82</td>
<td>3.47×0.78</td>
<td>4.23×0.54</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ(m)</td>
<td>1.52</td>
<td>1.49</td>
<td>1.03</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N-83°-W</td>
<td>N-90°-E</td>
<td>N-90°-E</td>
</tr>
<tr>
<td>墓土</td>
<td>6層に細分化した。黒褐色を主体に構成される。自然堆積と考えられる。</td>
<td>7層に細分化した。黒褐色を主体に構成される。自然堆積と考えられる。</td>
<td>5層に細分化した。黒褐色を主体に構成される。自然堆積と考えられる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>中央部が最深</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>28</td>
<td>28</td>
<td>29</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>18</td>
<td>19</td>
<td>16</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両縁オーバーハング、墓土上部から縄文土器1片出土。</td>
<td>両縁オーバーハング</td>
<td>未定</td>
</tr>
<tr>
<td>道端名</td>
<td>49号側壁穴状造構</td>
<td>50号側壁穴状造構</td>
<td>51号側壁穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>-----------------</td>
<td>-----------------</td>
<td>-----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅣC4d・4e</td>
<td>ⅣC5e・5d</td>
<td>ⅣC3b・3c</td>
</tr>
<tr>
<td>執出面</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅳ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>平面形</td>
<td>平面形</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>U字形</td>
<td>U字形</td>
<td>Y字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>3.25×0.32 (m)</td>
<td>3.72×0.22 (m)</td>
<td>3.91×0.4 (m)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>0.66</td>
<td>0.19</td>
<td>0.90</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N－85°－E</td>
<td>N－81°－E</td>
<td>N－84°－E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>2層に細分した。黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>3層に細分した。黒褐色土・縦断面薄土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>園</td>
<td>29</td>
<td>29</td>
<td>30</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>16</td>
<td>20</td>
<td>20</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両側オープンハウス</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>道端名</th>
<th>52号側壁穴状造構</th>
<th>53号側壁穴状造構</th>
<th>54号側壁穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅣC3b・3c</td>
<td>ⅣC5e・5f・6e・6f</td>
<td>ⅣGj・ⅣD9a</td>
</tr>
<tr>
<td>執出面</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅳ層</td>
<td>Ⅳ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>平面形</td>
<td>平面形</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>V字形</td>
<td>Y字形</td>
<td>U字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>3.69×0.49 (m)</td>
<td>2.96×0.61 (m)</td>
<td>3.24×0.24 (m)</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>0.89</td>
<td>1.25</td>
<td>0.72</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N－84°－E</td>
<td>N－77°－E</td>
<td>N－75°－E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>4層に細分した。黒褐色土・縦断面薄土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>4層に細分した。黒褐色土・ウド色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>園</td>
<td>30</td>
<td>30</td>
<td>31</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>20</td>
<td>20</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両側オープンハウス</td>
<td>両側オープンハウス</td>
<td>両側オープンハウス</td>
</tr>
<tr>
<td>霧橋名</td>
<td>55号線し穴状造橋</td>
<td>56号線し穴状造橋</td>
<td>57号線し穴状造橋</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>-----------------</td>
<td>-----------------</td>
<td>-----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>VIA7J・8J</td>
<td>VIA2E・3D・3E</td>
<td>VIA10G・10H</td>
</tr>
<tr>
<td>指出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>58号線し穴状造橋</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形:溝状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形:Y字形</td>
<td>Y字形</td>
<td>U字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口部径 (m): 3.57×0.21</td>
<td>4.05×0.41</td>
<td>3.13×0.19</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>深さ (m): 1.12</td>
<td>1.40</td>
<td>0.39</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N-35°-E</td>
<td>N-49°-E</td>
<td>N-70°-E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>6層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>4層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>2層に細分した。暗褐色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>東側に傾斜</td>
<td>波打平坦</td>
<td>東側に傾斜</td>
</tr>
<tr>
<td>傾</td>
<td>31</td>
<td>32</td>
<td>32</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>21</td>
<td>21</td>
<td>21</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両側オープンハング</td>
<td>両側オープンハング</td>
<td>両側オープンハング</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>霧橋名</th>
<th>58号線し穴状造橋</th>
<th>59号線し穴状造橋</th>
<th>60号線し穴状造橋</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>VIA9H・10G・10H</td>
<td>VIA10J・10H</td>
<td>VIA2J・2J・1J・2J</td>
</tr>
<tr>
<td>指出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>57号線し穴状造橋</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形:溝状</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形:Y字形</td>
<td>Y字形</td>
<td>Y字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口部径 (m): 4.04×0.21</td>
<td>3.62×0.50</td>
<td>3.59×0.51</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>深さ (m): 0.92</td>
<td>0.76</td>
<td>1.01</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N-36°-E</td>
<td>N-54°-E</td>
<td>N-48°-E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>4層に細分した。暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>4層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>5層に細分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>東側に傾斜</td>
<td>波打平坦</td>
<td>波打平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>傾</td>
<td>32</td>
<td>33</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>22</td>
<td>22</td>
<td>22</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両側オープンハング</td>
<td>両側オープンハング</td>
<td>両側オープンハング</td>
</tr>
<tr>
<td>道橋名</td>
<td>61号陰し穴状造構</td>
<td>62号陰し穴状造構</td>
<td>63号陰し穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>V G10h</td>
<td>V G4e・4 f</td>
<td>V G7h・7 i・8 h・8 i</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>15号土坑を載る</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>Y字形</td>
<td>Y字形</td>
<td>Y字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>間口部径 (m)</td>
<td>3.10×0.43</td>
<td>2.21×0.49</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>0.89</td>
<td>0.82</td>
<td>0.86</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N-85°-E</td>
<td>N-65°-E</td>
<td>N-76°-E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>4層に細分した。黒色土・黒褐土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>3層に細分した。黒色土・黒褐土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>3層に細分した。黒褐土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>33</td>
<td>34</td>
<td>34</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>22</td>
<td>23</td>
<td>23</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>道橋名</th>
<th>64号陰し穴状造構</th>
<th>65号陰し穴状造構</th>
<th>66号陰し穴状造構</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>V G5c</td>
<td>V G6 b</td>
<td>V G6 b</td>
</tr>
<tr>
<td>検出面</td>
<td>Y層</td>
<td>Y層</td>
<td>Y層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>U字形</td>
<td>U字形</td>
<td>Y字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>間口部径 (m)</td>
<td>3.06×0.21</td>
<td>2.96×0.48</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>0.58</td>
<td>0.55</td>
<td>0.67</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>N-43°-E</td>
<td>N-75°-E</td>
<td>N-6°-E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>3層に細分した。黑色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>4層に細分した。黒褐色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>2層に細分した。黑色土・黒褐土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>34</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>23</td>
<td>23</td>
<td>24</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>階層名</td>
<td>67号書し穴状造構</td>
<td>68号書し穴状造構</td>
<td>69号書し穴状造構</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ＶＤ１ｅ</td>
<td>ＶＣ５ｊ・ＶＤ５ａ</td>
<td>ＶＢ２ｉ・２ｊ</td>
</tr>
<tr>
<td>換出面</td>
<td>Ｖ層</td>
<td>Ｖ層</td>
<td>Ｖ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>溝状</td>
<td>溝状</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>Ｙ字形</td>
<td>Ｙ字形</td>
<td>Ｙ字形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口面積 (m²)</td>
<td>0.44</td>
<td>2.95 × 0.48</td>
</tr>
<tr>
<td>深さ (m)</td>
<td>0.15</td>
<td>0.82</td>
<td>1.11</td>
</tr>
<tr>
<td>長軸方位</td>
<td>Ｎ—83°—Ｗ</td>
<td>Ｎ—90°—E</td>
<td>Ｎ—50°—E</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>不明</td>
<td>4層に細分化した黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>6層に細分化した黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>25</td>
<td>35</td>
<td>35</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>24</td>
<td>24</td>
<td>24</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
<td>両端オーバーハング</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>階層名</th>
<th>1号土坑</th>
<th>2号土坑</th>
<th>3号土坑</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>ⅡＤ８ｊ</td>
<td>ⅣＥ５ｆ・Ⅵｆ</td>
<td>ⅥＥ５ｈ・Ⅵｈ</td>
</tr>
<tr>
<td>換出面</td>
<td>Ｖ層</td>
<td>Ｖ層</td>
<td>Ｖ層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>不整円形</td>
<td>円形</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>不整円形</td>
<td>円形</td>
<td>円形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口面積 (m²)</td>
<td>1.36 × 1.20</td>
<td>1.58 × 1.36</td>
</tr>
<tr>
<td>最深部 (m)</td>
<td>1.02</td>
<td>0.82</td>
<td>0.94</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>4層に細分化した黒褐色土・灰黄色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>12層に細分化した黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>5層に細分化した黒褐色土・灰黄色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>36</td>
<td>36</td>
<td>36</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>25</td>
<td>25</td>
<td>25</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>道端名</td>
<td>4号土坑</td>
<td>5号土坑（隠し穴状造構）</td>
<td>6号土坑（隠し穴状造構）</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>----------</td>
<td>----------------</td>
<td>----------------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>VF9.91.10d</td>
<td>VIE2a・3a・3b</td>
<td>VIE1g・2g</td>
</tr>
<tr>
<td>掘出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>円形</td>
<td>楕円形</td>
<td>楕円形</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>逆三角形</td>
<td>逆三角形</td>
<td>逆三角形</td>
</tr>
<tr>
<td>標高</td>
<td>1.34×1.18</td>
<td>1.83×1.40</td>
<td>1.58×1.34</td>
</tr>
<tr>
<td>最深部（m）</td>
<td>0.84</td>
<td>1.08</td>
<td>0.99</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>9層に細分化。黒褐色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と考えられる。</td>
<td>5層に細分化。To-cu・黒褐色土・暗褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。</td>
<td>3層に細分化。To-cu・黒褐色土・暗褐色土を主体に構成される。自然堆積と考えられる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>なし</td>
<td>27基</td>
<td>9基</td>
</tr>
<tr>
<td>軟面</td>
<td>高らか平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>36</td>
<td>37</td>
<td>37</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>26</td>
<td>27</td>
<td>28</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>隠し穴状造構</td>
<td>隠し穴状造構</td>
<td>隠し穴状造構</td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>道端名</th>
<th>7号土坑（隠し穴状造構）</th>
<th>8号土坑（隠し穴状造構）</th>
<th>9号土坑（隠し穴状造構）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>VI F4e</td>
<td>VI E3j</td>
<td>VI E1c・1d</td>
</tr>
<tr>
<td>掘出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>不正形</td>
<td>円形</td>
<td>円形</td>
</tr>
<tr>
<td>断面形</td>
<td>逆三角形</td>
<td>フラスコ状</td>
<td>逆三角形</td>
</tr>
<tr>
<td>標高</td>
<td>1.76×1.36</td>
<td>1.44×1.42</td>
<td>1.81×1.52</td>
</tr>
<tr>
<td>最深部（m）</td>
<td>1.07</td>
<td>0.88</td>
<td>1.09</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>3層に細分化。黒褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。</td>
<td>3層に細分化。黒褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。</td>
<td>4層に細分化。To-cu・黒褐色土・暗褐色土で構成される。自然堆積と考えられる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>6基</td>
<td>なし</td>
<td>10基</td>
</tr>
<tr>
<td>軟面</td>
<td>高らか平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
<td>ほぼ平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>図</td>
<td>37</td>
<td>37</td>
<td>38</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>29</td>
<td>26</td>
<td>28</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>副穴の深さ20～43cm。埋土は黒褐色土である。To-Nbを含むものがある。隠し穴状造構である。</td>
<td>副穴の深さ17～23cm。埋土は黒褐色土である。隠し穴状造構である。</td>
<td>副穴の深さ6～24cm。埋土は黒褐色土である。To-Nbを含むものがある。隠し穴状造構である。</td>
</tr>
<tr>
<td>遠藤名</td>
<td>10号土坑（陰し穴状遺構）</td>
<td>11号土坑</td>
<td>12号土坑</td>
</tr>
<tr>
<td>--------</td>
<td>------------------</td>
<td>----------</td>
<td>----------</td>
</tr>
<tr>
<td>位置</td>
<td>D G 5 h</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>掘出面</td>
<td>V層</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>小形形</td>
<td>小形形</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形</td>
<td>筒形</td>
<td>筒形</td>
</tr>
<tr>
<td>規模</td>
<td>開口部径（m）</td>
<td>1.16×0.78</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>最深部（m）</td>
<td>0.92</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>3層に分した。黒褐色土を主体に構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>なし</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

| 副穴   | 7基             | なし      | なし      |
| 底面   | ほぼ平坦        | なし      | なし      |
| 園     | 38              | なし      | なし      |
| 写真図版 | 31            | なし      | なし      |
| 特記事項 | 副穴の深さ6〜8cm。埋土は黒褐色土または黒褐色土である。ko ‐ neを含むものがある。陰し穴状遺構である。 | なし |

<table>
<thead>
<tr>
<th>遠藤名</th>
<th>13号土坑（陰し穴状遺構）</th>
<th>14号土坑</th>
<th>15号土坑</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>D G 4 c</td>
<td>D G 6 b • 6 c</td>
<td>D G 4 e • 4 f</td>
</tr>
<tr>
<td>掘出面</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
<td>V層</td>
</tr>
<tr>
<td>重複関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>62号陰し穴に載られる</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形</td>
<td>横円形</td>
<td>円形</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>断面形</td>
<td>逆合形</td>
<td>円形</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>開口部径（m）</td>
<td>1.60×1.40</td>
<td>1.38×1.15</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>最深部（m）</td>
<td>1.15</td>
<td>0.95</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>5層に分した。To ‐ cu・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>3層に分した。To ‐ cu・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
<td>2層に分した。黑色土・黒褐色土で構成される。自然堆積と思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>5基</td>
<td>1基</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>段を有す</td>
<td>凹凸</td>
<td>前述平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>園</td>
<td>38</td>
<td>39</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>32</td>
<td>33</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>副穴の深さ16〜28cm。埋土は黒褐色土To ‐ neを含まない。陰し穴状遺構である。</td>
<td>副穴の深さ10cm。陰し穴状遺構である。</td>
<td>なし</td>
</tr>
</tbody>
</table>

-32-
<table>
<thead>
<tr>
<th>地形名</th>
<th>16号土坑（隆井穴状盤根）</th>
<th>17号土坑（隆井穴状盤根）</th>
<th>18号土坑（隆井穴状盤根）</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>位置</td>
<td>〒217・71</td>
<td>〒217・58</td>
<td>〒276・7c</td>
</tr>
<tr>
<td>指出面</td>
<td>Ⅲ層</td>
<td>Ⅲ層</td>
<td>Ⅲ層</td>
</tr>
<tr>
<td>形状</td>
<td>平面形円形</td>
<td>不整形円形</td>
<td>円形</td>
</tr>
<tr>
<td>前後関係</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
<td>なし</td>
</tr>
<tr>
<td>柵</td>
<td>開口部径（m）</td>
<td>1.32×1.23</td>
<td>1.48×1.22</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>最深部（m）</td>
<td>0.86</td>
<td>0.94</td>
</tr>
<tr>
<td>埋土</td>
<td>4層に細分化した、黒褐色土を主体に構成される。自然堆積とと思われる。</td>
<td>7層に細分化した、黒褐色土を主体に構成される。自然堆積とと思われる。</td>
<td>5層に細分化した、黒褐色土を主体に構成される。自然堆積とと思われる。</td>
</tr>
<tr>
<td>副穴</td>
<td>1基</td>
<td>1基</td>
<td>1基</td>
</tr>
<tr>
<td>底面</td>
<td>均衡平坦</td>
<td>均衡平坦</td>
<td>均衡平坦</td>
</tr>
<tr>
<td>周</td>
<td>39</td>
<td>39</td>
<td>39</td>
</tr>
<tr>
<td>写真図版</td>
<td>34</td>
<td>35</td>
<td>26</td>
</tr>
<tr>
<td>特記事項</td>
<td>副穴の深さ24cm、隆井穴状盤根である。</td>
<td>副穴の深さ26cm、隆井穴状盤根である。</td>
<td>副穴の深さ9cm、隆井穴状盤根である。</td>
</tr>
</tbody>
</table>

第3表 土坑剖面観察表

<table>
<thead>
<tr>
<th>5号土坑剖面観察表</th>
<th>10号土坑剖面観察表</th>
<th>15号土坑剖面観察表</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>30cm</td>
<td>33cm</td>
<td>38cm</td>
</tr>
<tr>
<td>12cm</td>
<td>13cm</td>
<td>16cm</td>
</tr>
<tr>
<td>10cm</td>
<td>10cm</td>
<td>10cm</td>
</tr>
<tr>
<td>30cm</td>
<td>30cm</td>
<td>30cm</td>
</tr>
<tr>
<td>12cm</td>
<td>12cm</td>
<td>12cm</td>
</tr>
<tr>
<td>10cm</td>
<td>10cm</td>
<td>10cm</td>
</tr>
<tr>
<td>30cm</td>
<td>30cm</td>
<td>30cm</td>
</tr>
<tr>
<td>12cm</td>
<td>12cm</td>
<td>12cm</td>
</tr>
<tr>
<td>10cm</td>
<td>10cm</td>
<td>10cm</td>
</tr>
<tr>
<td>30cm</td>
<td>30cm</td>
<td>30cm</td>
</tr>
<tr>
<td>12cm</td>
<td>12cm</td>
<td>12cm</td>
</tr>
<tr>
<td>10cm</td>
<td>10cm</td>
<td>10cm</td>
</tr>
<tr>
<td>30cm</td>
<td>30cm</td>
<td>30cm</td>
</tr>
</tbody>
</table>
1号焼土
1. DVF3/3上部褐色シート 硬化遅れ しまり中
2. DVF3/2上部褐色シート 硬化遅れ しまり中
3. DVF3/1上部褐色シート 硬化遅れ しまり中

 seals

2号焼土
1. DVF2/3上部褐色シート 硬化遅れ しまり中
2. DVF2/2上部褐色シート 硬化遅れ しまり中
3. DVF2/1上部褐色シート 硬化遅れ しまり中

 seals

1号炭窯
1. DVY2/3褐色シート 硬化遅れ しまり中
2. DVY2/2褐色シート 硬化遅れ しまり中
3. DVY2/1褐色シート 硬化遅れ しまり中

 seals

2号炭窯
1. DVY1/3褐色シート 硬化遅れ しまり中
2. DVY1/2褐色シート 硬化遅れ しまり中
3. DVY1/1褐色シート 硬化遅れ しまり中

 seals
4号隠し穴状遺構

5号隠し穴状遺構

6号隠し穴状遺構

第14図 4～6号隠し穴状遺構
10号陥し穴状遺構

L=55.000m

10号陥し穴状遺構
1. 08R1/1斑点褐色シルト 綿維質 ようり粘
2. 08R1/2深褐色シルト 綿維質 ようり粘
3. 08R1/3灰色シルト 細粒層 細粒層が鮮やに
4. 08R1/4黑色シルト 樹木が多々 しまやや沙
5. 08R1/5黑色シルト 細粒層 しまやや粘

11号陥し穴状遺構

L=51.700m

11号陥し穴状遺構
1. 08R2/1斑点褐色シルト 綿維質 ようり粘 60〜90%
2. 08R2/2深褐色シルト 綿維質 ようり粘 60〜90%
3. 08R2/3灰色シルト 細粒層 ようり粘
4. 08R2/4黑色シルト 綿維質 ようり粘
5. 08R2/5黑色シルト 細粒層 しまやや粘 7%
6. 08R2/6黑色シルト 細粒層 ようり粘 7%

12号陥し穴状遺構

L=55.700m

12号陥し穴状遺構
1. 08R3/1斑点褐色シルト 細粒層 ようり粘
2. 08R3/2深褐色シルト 細粒層 ようり粘
3. 08R3/3灰色シルト 細粒層 ようり粘
4. 08R3/4黑色シルト 細粒層 しまやや粘

第16図 10〜12号陥し穴状遺構
19号竪穴遺構

20号竪穴遺構

21号竪穴遺構

第19図 19〜21号竪穴遺構
図IV 検出された遺構

25号隠し穴状遺構

26号隠し穴状遺構

27号隠し穴状遺構

21号隠し穴状遺構

第21図 25～27号隠し穴状遺構
37号竪穴式遺構
1. HWR211型土壇土 原状
2. HWR121型褐土 原状
3. HWR122型熟土 原状

38号竪穴式遺構
1. HWR211型土壇土 原状
2. HWR121型褐土 原状
3. HWR122型熟土 原状

39号竪穴式遺構
1. HWR211型土壇土 原状
2. HWR121型褐土 原状
3. HWR122型熟土 原状

第25図 37〜39号竪穴式遺構
40号隠し穴状遺構

41号隠し穴状遺構

42号隠し穴状遺構

4号隠し穴状遺構

第26図 40〜42号隠し穴状遺構
46号間し穴状遺構
1. 47号L1の黒色シルト 圧縮中 中間（T40.gもしくは黒色）
2. 47号L2の黒色シルト 場合中 中間（T40.gもしくは黒色）
3. 47号L3の黒色シルト 反対中 中間（T40.gもしくは黒色）
4. 47号L4の黑色シルト 反対中 中間（T40.gもしくは黒色）
5. 47号L5の黑色シルト 反対中 中間（T40.gもしくは黒色）
6. 47号L6の黑色シルト 反対中 中間（T40.gもしくは黒色）

47号間し穴状遺構
1. 47号L1の黒色シルト 圧縮中 中間（T40.gもしくは黒色）
2. 47号L2の黒色シルト 場合中 中間（T40.gもしくは黒色）
3. 47号L3の黒色シルト 反対中 中間（T40.gもしくは黒色）
4. 47号L4の黑色シルト 反対中 中間（T40.gもしくは黒色）
5. 47号L5の黑色シルト 反対中 中間（T40.gもしくは黒色）
6. 47号L6の黑色シルト 反対中 中間（T40.gもしくは黒色）

第28図 46・47号間し穴状遺構集成図
51号・52号隠し穴状遺構

51号隠し穴状遺構

52号隠し穴状遺構

53号隠し穴状遺構

第30図 51〜53号隠し穴状遺構
54号竪穴遺構

55号竪穴遺構

第31図 54・55号竪穴遺構
59号隠し穴状構造

L=56.800m

59号隠し穴状構造

1.  HOLDI L=1/1000シート テープ状 みなり中
2.  HOHI L=1/1000シート 破壊状 みなりやや密
3.  HOLDI L=1/1000シート 22%クサリ状 みなりやや密
4.  HODH L=1/1000シート 22%クサリ状 みなりやや密

60号隠し穴状構造

L=57.500m

60号隠し穴状構造

1.  HOLDI L=1/1000シート テープ状 みなり中（Te=92.4%含む）
2.  HOHI L=1/1000シート 破壊状 みなりやや密
3.  HOLDI L=1/1000シート 22%クサリ状 みなりやや密
4.  HODH L=1/1000シート 22%クサリ状 みなりやや密

61号隠し穴状構造

L=55.400m

61号隠し穴状構造

1.  HOLDI L=1/1000シート 22%クサリ状 みなり中（Te=92.4%含む、耐圧土24%含む）
2.  HOHI L=1/1000シート 22%クサリ状 みなりやや密
3.  HOLDI L=1/1000シート 22%クサリ状 みなりやや密
4.  HODH L=1/1000シート 22%クサリ状 みなりやや密（選出ブロック10%含む）

第33図 59〜61号隠し穴状構造
62号陥し穴状遺構

1. 1998.7.15 黒色シルト 粘性中 粘り出し（堆積層疊上含む）
2. 1998.2/1灰色シルト 粘性中 粘り出し（10mごく少量含む）
3. 1998.2/2灰色シルト 粘性中 粘り出し 酸化塩基（1mでごく少量）

63号陥し穴状遺構

1. 1998.7/1灰色シルト 粘性中 粘り出し（10mごく少量含む）
2. 1998.3/1灰色シルト 粘性中 粘り出し（10mごく少量含む）
3. 1998.3/2灰色シルト 粘性中 粘り出し（10mごく少量含む）

64号陥し穴状遺構

1. 1998.7/2灰色シルト 粘性中 粘り出し（10mごく少量含む）
2. 1998.3/2灰色シルト 粘性中 粘り出し（10mごく少量含む）
3. 1998.3/3灰色シルト 粘性中 粘り出し（10mごく少量含む）

第34図 62～64号陥し穴状遺構
第35図 65～69号穴状遺構
1号土坑
1. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
2. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
3. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
4. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや

2号土坑
1. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
2. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
3. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
4. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや

3号土坑
1. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
2. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
3. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
4. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや

4号土坑
1. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
2. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
3. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや
4. 10倍2土褐色シルト 精密度 しまりや

第36図 1～4号土坑
9号土壌
1. To-Ca (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
2. To-Ca/2 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
3. To-Ca/3 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
4. To-Ca/4 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報

10号土壌
1. 10号土壌変色土壌 含水層 しらす (比較的含水量大)
2. 10号土壌変色土壌 含水層 しらす (比較的含水量大)
3. 10号土壌変色土壌 含水層 しらす (比較的含水量大)
4. 10号土壌変色土壌 含水層 しらす (比較的含水量大)

13号土壌
1. To-Ca (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
2. To-Ca/2 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
3. To-Ca/3 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
4. To-Ca/4 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
5. To-Ca/5 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報

14号土壌
1. To-Ca (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
2. To-Ca/2 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報
3. To-Ca/3 (変色土壌含む) 粘粒状土壌 (しらす)と報

第38図 9～14号土壌
15号土坑
1. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
2. テト2/3黒褐色シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
3. テト1/3黑色シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
4. テト2/3黒褐色シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
5. テト2/3黒褐色シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)

16号土坑
1. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
2. テト2/3黒褐色シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
3. テト2/3黒褐色シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
4. テト2/3黒褐色シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)

17号土坑
1. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
2. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
3. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
4. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
5. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
6. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
7. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)

18号土坑
1. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
2. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
3. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
4. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
5. テト2/3角形シルト 塩化塩 しまりず (Te60gを含む)
Ⅴ 出土遺物

出土した遺物の総量は、土器が中コンテナ（42×32×20cm）1箱、石器類が中コンテナ（42×32×20cm）2箱である。

1 遺構に伴う遺物（第41図1～4、写真図版38）

遺構に伴う遺物は1～4の土器がある。1は46号付近穴状遺構壇土壌から出土した。胎土に繊維は含まれず、半焼L R縄文が施される。2～4は2号焼土遺構壇土壌から出土したものである。2は壷の口縄部、3は鉤もしくは高婦の頭部で、赤色顔料が塗布される。4は単縄縄文が施される口縄部片である。縄文時代晚期～弥生時代の遺物と思われる。

2 遺構外出土遺物（第41～48図、写真図版38～42）

（1）土 器

ここでは、文様・繊維の有無等により土器型式に当てはめ、以下のように分類した。

I群 縄文時代早期中葉の土器（第41図5、写真図版38）

口部・肩部が施される円筒土器である。

II群 縄文時代前期の土器（第41図6～13、写真図版38）

胎土に繊維を含む縄文時代前期前半の土器である。

III群 縄文時代中期の土器（第41図14a～c・15・16、写真図版38）

Ia ～cは縄文圧延・単縄縄文が施される円筒土器である。15・16は雑線と単縄縄文が施される中期末の可能性が高い土器である。

IV群 縄文時代後期の土器（第41図17、写真図版38）

縄文土器後期、土器が施される後期前期の土器である。

V群 縄文時代後期の土器（第41図18、写真図版38）

口縄部に刻目・胴部に単縄縄文が施される縄文時代後期土器である。

VI群 縄文時代後期～弥生時代中期の土器（第41図19～25、写真図版38）

小破片のため、詳細な時期を特定することは出来ないが、20～23の壷類は泥球文が施される後期後半あるいは変形土器が施される弥生時代中期に比定されると言葉される。

VII群 弥生時代後期土器（第41図26～28、写真図版38）

26・27は無縄の縄文、隆脚に刻目（交互刻文）が施される。

VIII群 粗製の土器（第42図29～42、写真図版38）

口縄部が折り返しのもの（29）、隆脚が施されるもの（30）、小波状のもの（31・32）、平坦なもの（33・34）、無縄のもの（35・36）がある。
(2) 陶 磁 器（第42図43・44、写真図版38）

43は、福井・美濃産灰質陶器の片口である（17世紀）、44は肥前産（波佐見窯）のいわゆる「くらわんか」と呼ばれる染付碗である。18世紀前葉～中葉の大橋織年図に属する（大橋1989）。

(3) 石 器・石 製 品（第43図88・89、写真図版39~42）

56点を掲載・記載した。いわゆる定型石器と呼ばれるもの、使用痕跡が明瞭であるもの、破損品でも全体形状が推定できるものを掲載した。全体の内訳は石鈴1点、石刀2点、石鎚1点、石袋状石器1点、挫・削器1点、錛製石斧3点、四石2点、礫石2点、打製石斧42点、鍛鉄石1点である。以下、器種別に記載する。

石鈴（第43図46、写真図版39）

基部がいわゆる筒状の石鈴である。

石刀（第43図47、写真図版39）

つまみ部が作成されるいわゆる板状石刀である。

石鎚（第43図48、写真図版39）

鍬先形を有するが、剣筒図を用いてつまみ部を欠損した未製品の可能性が考えられる。

石袋状石器（第43図49、写真図版39）

片面・側面に細部加工剝離調整を行う。

挫・削器（第43図50、写真図版39）

側面に刃部をもつ。

四石（第43図51・52図、写真図版39）

片面に側面と同形が認められるものを四石とした。四面は複数啄所があり、片面にあるもの（51）と片面にあるもの（52）がある。

礫石（第43図53・第44図54、写真図版39）

片面・側面に鍬形石が認められるもの（53）。片面・側面に鍬形石が認められるもの（54）がある。

錛製石斧（第44図55~57、写真図版39）

57は錛製法によって成形されたものである。側面に錛を用いた断面が認められる。56・57共にベッキングの痕跡が認められる。石質は55がダイサイト製、56・57は北島産のアオトラ石を石材に使用している。

打製石斧（第44図58~59、写真図版40~41）

片面のしばしばに自然に残し、平面形は直接打撃によって楔円形・長方形に整形され、周縁に角度の大きな刃部が形成されるものを打製石斧として扱った。形状・剝離調整に着目して、以下の通りに分類した。

A群：基部から刃部にかけて開く形状のもの。

a類 自然面の剝離が認められないもの（58~61）。
b類 自然面の剥離部に剝離があるもの（62~73）。
c類 自然面の剥離部・基部に剝離があるもの（74~76）。
d類 自然面の剥離部・刃部に剝離があるもの（77）。
e類 自然面の刃部に剝離があるもの（78）。
f類 自然面の刃部に剝離があるもの（79）。

-63-
g 類 自然面の側縁部・基部・刃部に剥離があるもの(80)。
石材は不掲載遺物を含め細粒花崗閃緑岩製10点、砂岩製5点、ヒッ岩製3点、ダイサイト製3点、
凝灰質砂岩製2点、細粒閃緑岩製1点、はんれい岩製1点である。
B群：全体の形状が橢円形のもの(81)。
石材は砂岩製である。
C群：全体の形状が扁平するもの(82・83)。自然面の拡げ部分に剥離がある。石材は両者とも細粒花崗閃緑岩製である。
D群：全体の形状が方形を呈するもの(長さが幅の倍未満)。
　a 類 自然面の剥離が顕著に認められないもの(84)。
　b 類 自然面の側縁部に剥離があるもの(85)。
　c 類 自然面の基部・刃部に剥離があるもの(86・87)。
　d 類 自然面の側縁部・基部・刃部に剥離があるもの(88)。
石材は細粒花崗閃緑岩製2点、凝灰質砂岩製1点、砂岩製1点、ホルンフェルス製1点である。
E群：全体の形状が短冊形を呈するもの(長さが幅の倍以上)。
　a 類 自然面の剥離が顕著に認められないもの(89・90)。
　b 類 自然面の側縁部に剥離があるもの(91～93)。
　c 類 自然面の基部・側縁部に剥離があるもの(94・95)。
　d 類 自然面の刃部・側縁部に剥離があるもの(96)。
石材は細粒花崗閃緑岩製5点、砂岩製2点、ダイサイト製1点である。
F群：欠損などにより全体の形状を特定できないもの(97・99)。
欠損の位置は器面中央部付近に認められるものが多い。石材は不掲載遺物を含めると細粒花崗閃緑岩製23点、砂岩製10点、ヒッ岩製9点、細粒閃緑岩製4点、石英斑岩製2点、玄武岩製2点、凝灰質砂岩製2点、はんれい岩製2点、ダイサイト製2点、安山岩製1点である。
独軸石（第48図100、写真図版42）
1点のみの出土である。ホルンフェルス製の石材を敲打後研磨して、採り部と二つの隆起を作り出した。
第41回 出土遺物（1）
第42図 出土遺物（2）
第46回 出土遺物（8）
第4表 土器・陶磁器観察表

<table>
<thead>
<tr>
<th>御海番号</th>
<th>入土地点</th>
<th>原素</th>
<th>品種</th>
<th>形態</th>
<th>文様・彫刻等</th>
<th>内部</th>
<th>色相</th>
<th>分類</th>
<th>考察</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>内甘楽</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>9</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>10</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>11</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>12</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>13</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
<tr>
<td>14</td>
<td>沖柄</td>
<td>鐵部</td>
<td>龜部</td>
<td>色部</td>
<td>色部</td>
<td>細足</td>
<td>五色</td>
<td>41</td>
<td>33</td>
</tr>
</tbody>
</table>

この表は、出土遺物に関する観察成績を記載しています。土器・陶磁器の種類別に分類され、それぞれの形態、文様、内部、色相、分類、考察等が記載されています。
# 第5表 石器観察表

<table>
<thead>
<tr>
<th>石器種類</th>
<th>長さ (cm)</th>
<th>幅 (cm)</th>
<th>厚さ (cm)</th>
<th>重量 (g)</th>
<th>匠</th>
<th>石材</th>
<th>位置</th>
<th>品揃え</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>45大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>1.0</td>
<td>0.3</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>46大理石</td>
<td>1.8</td>
<td>0.8</td>
<td>0.7</td>
<td>1.36</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>47大理石</td>
<td>2.0</td>
<td>0.6</td>
<td>0.8</td>
<td>1.16</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>48大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.6</td>
<td>0.66</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>49大理石</td>
<td>1.6</td>
<td>1.7</td>
<td>0.7</td>
<td>2.64</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>50大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.8</td>
<td>1.27</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>51大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>52大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>53大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>54大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>55大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>56大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>57大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>58大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>59大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>60大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>61大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>62大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>63大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>64大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>65大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>66大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>67大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>68大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>69大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>70大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>71大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>72大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>73大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>74大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>75大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>76大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>77大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>78大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>79大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>80大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>81大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>82大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>83大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>84大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>85大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>86大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>87大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>88大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>89大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
<tr>
<td>90大理石</td>
<td>1.5</td>
<td>0.8</td>
<td>0.5</td>
<td>0.54</td>
<td>白（北海道・東北地方）</td>
<td>1</td>
<td>43</td>
<td>表記</td>
</tr>
</tbody>
</table>

"北海道・東北地方"に位置して、品揃えに表記されている石器類です。
VI 総括

1 隈壁遺構について

（1）潮穴を伴う隤壁遺構（5〜13号、16〜18号土壇）

平面形が円形・楕円形・小判形で、断面形では底面形より開口部径が広く、底面に潮穴を伴う土壇は隤壁遺構と判断した。形成は上田田南部浮石デフラ層を載り、埋土上部に厚生田中帯デフラが堆積していることから、南部浮石層を継ぎ中帯デフラ層を継ぎ以下の遺構である。埋土に厚生田中帯デフラが認められないものについても、底面に潮穴が伴うことから時期別のものと判断される。開口部径は最大のもので180×140 cm（13号土壇）、最小のもので116×78 cm（10号土壇）である。潮穴の規模は径4〜11 cm、深さ6〜43 cmで6〜22基配置されるA類（5〜10・13号）と、径16〜34 cm、深さ10〜20 cmの底面中央付近に配置されるB類（14〜18号）の2種に大別される（図99回）。配置は、IV・VF・VE・V Dグリッド内で北西から南東方向に列状に配置されるものがある（5〜9号・17〜18号）。

本遺跡から半径および30km圏内の次の遺跡では、同類の遺構が検出されている。篭壁遺跡（富士市）、黒坂遺跡（富士市）、荒屋敷久保（1）遺跡（八ヶ岳市）ら館遺跡（八ヶ岳市）、岩ノ沢平遺跡（八ヶ岳市）、松ヶ崎遺跡（富士市）、萱子（2）遺跡（八ヶ岳市）、田川河川遺跡（八ヶ岳市）、上野遺跡（八ヶ岳市）、弥次郎営遺跡（八ヶ岳市）、小倉橋（2）遺跡（階上町）、道仏鹿頭遺跡（階上町）、藤沢（2）遺跡（階上町）、上野遺跡（八ヶ岳市）、早坂遺跡（久慈市）ら、稲荷長屋構遺跡（田野崎村）、島越遺跡（田野崎村）、若田野（大場崎村）、野場I遺跡（田野崎村）、上川遺跡（野田村）の21遺跡で、検出数は144基である。

本遺跡類の遺跡形態のA類と類似するものは57基、B類と類似するものは45基、底面に潮穴が認められないもの25基（C類）、壁面に潮穴が配置される23基（D類）である（図50）。第50〜53回は、144基のうち82基それぞれの類遺跡の特徴を示す2基の隤壁遺構を抽出したものである。

形状は本遺跡と同様に、平面形は円形・楕円形・小判形、断面形は平ら斜面類に底面から外縁するものと底面から直立形に立ち上がるものがある。本遺跡のA・B類とは異なるものは、潮穴がないもの（C類）と、潮穴が岩ノ沢平遺跡の第19〜22・26・28・36・49号土壇のような壁面に配置されるものの（D類）である。D類については他の遺跡と比較しても類似するものはない。岩ノ沢平遺跡の隤壁遺構類は、他遺跡と比較して特異的なものと言える。

埋土は、本遺跡と同様に上部に十和田中帯デフラを含むものが検出されている（篭壁遺跡、黒坂遺跡、荒屋敷久保）遺跡（館遺跡、岩ノ沢平遺跡）ら、早坂遺跡、上川遺跡、上野遺跡、弥次郎営遺跡、道仏鹿頭遺跡）。

（2）溝状隤壁遺構（1〜69号隤壁遺構）

形状は両端がオープンしているものが大半である。断面形はV字形・Y字形・U字形・逆台形の4種である。Y字形・U字形は表記したものの中には、埋土の大半が壁面破壊土であることから、本来はV字形であると考えられる。

規模は長軸が最大のもので440 cm（1号隤壁遺構）、最小のもので220 cm（2号隤壁遺構）、深さは最深のもので171 cm（10号隤壁遺構）である。
主軸方位は東西軸の割合が多く、調査区北側斜面部と南側斜面部の標高53～61m付近において等高線と平行に配置される。時期は66号室道路遺構の断面観察で基本層序層から推定されていることから、十和田層群テフラ降下以降に構築されたものと考えられるが、詳細な時期を特定することは出来なかった。

2 打製石斧について

出土した石器のうちで79.8％を占める。多くはII・III地区で出土した。分類ごとの個数は、A群36点(26.2％)、B群1点(1.01％)、C群3点(3.03％)、D群5点(5.05％)、E群8点、F群57(57.5％)点の合計99点が出土した。法量の平均は長さ9.25cm、幅5.22cm、厚さ1.83cm、重量141.4gである(完形品のみの計測)。

刃角度の平均値は45.9°である。分類ごとにみると、A群48.4°、B群40°、C群42°、D群63.4°、E群11°である。他の群と比較してD群は全体平均より刃角度が17.5°大きい。石質は89点中、いずれ花崗岩類岩転21点(51.3%)、砂岩転22点(22.2%)、ヒメ岩転12点(12.1%)、粒状岩転6点(6.6%)、ディサイド岩転6点(6.6%)、凝灰岩転5点(5.0%)、変性岩転3点(3.0%)、石英質岩転2点(2.0%)、玄武岩転2点(2.0%)、ホルンフェルス転1点(1.01%)、安山岩転1点(1.01%)である。

本遺跡から半径30km周辺の遺跡記録は片岩に自然面を残し、法量(長さ、幅、厚さ)、刃角度が同類のものが出土している。第7表にこれらの中で、刺穴住居跡から出土したものを掲載した。即位遺跡はゴッソ一遺跡(洋野町)・平沢一遺跡(久慈市)・向陽遺跡(青葉村)・長卜町遺跡(平村)・長七谷地遺跡・長七谷地貝塚・風防遺跡(八戸市)・善野遺跡(八戸市)・藤沢三(上沢)遺跡(上沢)である。時期は後出時代中期から出土している。

本遺跡で打製石斧と呼称した縄石器は、三陸沿岸部で頗著に出土する傾向がある。曹代村向陽遺跡(2008年11月調査第10集)では、「力持型スクレイバー」と呼称し、スクレイピングなどの行な道具として報告している。また、洋野町北竜跡遺跡(2018年11月調査第686集)では、擬打痕跡が認められることから、石斧製作工の断層を観察し、擬打痕跡を認められる。擬打痕跡は石研磨の途中において、擬打石器に破損し、石斧の形状に至らなかった「磨製石斧の未製品」として報告している。本遺跡で出土した縄石器には、肉眼による観察で使用痕跡・擬打痕跡は認められなかった。また、石器製作に関連する遺物は出土していない。こうした状況により今回は「スケーレーバー」であるのか、あるいは「磨製石斧未製品」であるのかの判断は保留させるを得ない。

3 遺跡全体について

今回の調査において、石斧面に面した起伏のある丘陵地を対象として3万㎡以上の広大な範囲を発掘し、上述のとおり調査面の穴及び縄形、卵形形で数値を伴う陥跡が全面に分布する状況を確認した。これらは降下テフラ、基本層序との関係から、綱文時代早期中葉～前期中葉の所産である数値を伴う卵形形で、前期中葉以降の調査面に大別される。調査区間は綱文時代の居住施設等を発見されていないため、新川尻川周辺に集まる動物を対象とした狩猟地として、長期間に亘り利用されてきた場所であると考えられる。一方、遺物では三陸沿岸地方に特徴的な打製石斧が多く出土しており、狩猟地と遺物組成の関連についても更に検討する必要がある。
第2章に関わる引用・参考文献

岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター発行
1987『岩手県文化財調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第117集
2001『ゴッソーナ道路発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第357集
2004『平沼平道周辺調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第437集
2004『白手ノマナイ道跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第466集
2008『歴史遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第510集
2015『塩場池道路発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第555集
2015『絵図探査図案・発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第642集
2015『長沼・長沢遺跡』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第946集
2016『平野遺跡・北ノ本遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第654集
2017『上松遺跡発掘調査報告書』岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第674集

久慈市教育委員会発行
2002『平沢1遺跡』久慈市教育委員会発行
2002『洋野町埋蔵文化財調査報告書』洋野町教育委員会発行
2017『ゴッソーナ道路』洋野町埋蔵文化財調査報告書第3集

青森県教育委員会発行
1979『長七谷地魚塚』青森県埋蔵文化財調査報告書第1集
1982『華沼遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第76集
1989『平田地節遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第128集
2001『長巻遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第297集
2001『利尻島平遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第301集
2002『利尻（3）遺跡』利尻島平遺跡II青森県埋蔵文化財調査報告書第317集
2002『旧向冷沢遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第338集
2002『構内遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第342集
2004『松ヶ崎遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第377集
2004『青沢（3）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第372集
2006『花屋敷・居領（1）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第453集
2010『花屋敷（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第490集
2011『小泊里横遺跡』藤沢（2）遺跡』青森県埋蔵文化財調査報告書第599集
2014『北野遺跡III』青森県埋蔵文化財調査報告書第537集

青森県八戸市教育委員会発行
1996『長七谷地魚塚』八戸市埋蔵文化財調査報告書第8集
1998『市ヶ崎遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第33集
1990『平張（1）遺跡』八戸市埋蔵文化財調査報告書第42集
2014『平野遺跡III』八戸市埋蔵文化財調査報告書第537集

青森県岩手町教育委員会発行
2002『小坂橋（2）遺跡』石垣調査表と地域形成事業に伴う埋蔵文化財調査報告書
第51図 円形隆起状遺構集成図（1）
3  遺跡全体について

第15号土坑  第12号土坑  第25号土坑  9号隠し穴  8号隠し穴

松ヶ崎遺跡（八戸市）  笹子（2）遺跡（八戸市）

第10号土坑  第19号土坑  第44号土坑  第24号土坑

上野遺跡（八戸市）  弥次郎窪遺跡（八戸市）

第36号土坑  第49号土坑  第28号土坑

第29号土坑  第9号土坑  第23号土坑

第31号土坑  第18号土坑  第19号土坑

岩ノ沢平遺跡（八戸市）

第52図 円形除し状遺構集成図（2）
3 遺跡全体について

早坂平遺跡（久慈市）

島越Ⅱ遺跡（田野畑村）

北ノ越遺跡（久慈市）

和野ソマナイ遺跡（田野畑村）

上泉沢遺跡（野田村）

野場Ⅰ遺跡（野田村）
第7表 周辺遺跡の石製石器（木遺跡と同類）が出土している縄穴住居跡

<table>
<thead>
<tr>
<th>史跡名</th>
<th>番地</th>
<th>応対</th>
<th>開発年度</th>
<th>報告書</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>1番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>2番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>3番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>4番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>5番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>6番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>7番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>8番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>9番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>10番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>11番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>12番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>13番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>14番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>15番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>16番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>17番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>18番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>19番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
<tr>
<td>縄穴住居</td>
<td>20番地</td>
<td>前期</td>
<td>前期</td>
<td>報告書</td>
</tr>
</tbody>
</table>

(続く)


VII 火山灰分析

はじめに

岩手県洋野町種市に所在するサンニャIII遺跡では、縄文時代の筒し穴状遺構や土坑が検出されたほか、弥生時代、古代、中近世の遺構や遺物が確認されている。本報告では、遺構の検出と自然堆積層を認められた火山灰とされる堆積物の特性を明らかにして、既知の火山灰との対比を行い、年代に係る資料を作成する。

1. 試料

試料は縄文時代の土坑覆土および自然堆積層から採取されたテフラ採試料9点(Na1～9)である。Na1が9号土坑覆土、Na2が6号土坑覆土、Na3が7号土坑遺構検出面に対応する自然堆積層、Na4～8は5号土坑トレンチの自然堆積層断面の各層、Na9は5号土坑覆土よりそれぞれ採取されている。試料の一覧は、結果を示した表1に併記する。

2. 分析方法

試料約20gを蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流して去る。この操作を繰り返すことにより得られたスラリーを乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバルブ型・中間型・軽石型の3タイプに分類した。各型の形態は、バルブ型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた細線束状のものとする。

さらに火山ガラスおよび軽石については、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤 (1995) のMA10Tを使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

結果を表1に示す。9点の試料のうち、試料No.6と試料No.8以外の7点は、多量の軽石から構成される。軽石の特徴は、いずれの試料もほぼ同様であり、白色で発泡は良好～やや良好またはやや不良であり、輝石類の斑晶または不透明鉱物の斑晶を有する。最大粒径は、試料によって違いが大きく、試料No.5は18mmあるのに対し、試料No.2は0.5mmである。他の試料は数mm程度を呈する。試料No.7には火山ガラスも中量含まれる。火山ガラスのほとんどは、無色透明の軽石型であり、無色透明のバルブ型も微量含まれる。

試料No.6は、火山ガラスが多量に含まれ、軽石は少量である。火山ガラスの多くは、無色透明の軽石型であり、無色透明のバルブ型も微量含まれる。試料No.8には火山ガラスが少量含まれる。火山ガラスは無色透明の軽石型が多いが、褐色を帯びた軽石型やバルブ型も微量含まれる。

各試料の軽石・火山ガラスの屈折率を表1および図1～3に示す。9点の試料のうち、試料No.1,2,9の3点は、レンジの下限がn1.510または1.511であり、上限は1.514、モードは1.511～1.513を示す。
試料No.3と4の2点は、レンジの下限がnl.514または1.515であり、上限は1.520～1.523、モードは1.516～1.517です。試料No.5～8は、モードが不明瞭であり、レンジの幅が広い。これらのうち、試料No.6のレンジはnl.505～1.512、モードはnl.506～1.509であるが、試料No.6とNo.7は、レンジの下限はnl.503～1.505、上限はnl.516です。さらに試料No.8は、レンジの下限はnl.497、上限はnl.514です。

4. 考察

9点の試料のうち、試料No.8以外の8点は、いずれも軽石質テフラの降下堆積物に由来すると考えられる。遺跡の地理的配置を考慮すれば、テフラは千葉市大崎地区を含むとするテフラであると判断される。千葉市大崎地区を含むとするテフラは、町田・新井(2003)に記載された火山ガラスの屈折率によってテフラを特定することが可能である。今回の試料の中、試料No.1,2,9,10の2点については、千葉市大崎地区(To-Cu：朝日、1983)に同定され、試料No.3,4的2点については、千葉市大崎地区(To-Nb)に同定される。To-Cuの噴出年月は、歴史年で約1200年とされ、To-Nbの噴出年月は歴史年で約1200年とされている(工藤、2008)。

試料No.5については、その屈折率から、千葉市大崎地区(To-H：Hayakawa、1985)に由来する可能性があると考えられる。To-Hは約1200年以前(工藤、2008)に噴出したテフラであり、大規模火砕流の噴出を伴い、東北地方南部の更新世段丘上に広く分布している。5号土塁東側土塁地のB層とされた試料No.5は、To-Hの再堆積の可能性があると考えられる。

試料No.6～8については、幅広い屈折率のレンジとモードの不明瞭な状況から、複数のテフラの混在物である可能性が指摘される。その屈折率のレンジからは、To-HおよびTo-Nbの各テフラの混在が推定される。さらに、試料No.8の火山ガラスは、これら千葉市大崎地区由来のテフラに加えて、屈折率が1.500よりも低い火山ガラスが含まれることから、北海道の洞爺カルデラを含むとする洞爺テフラ(Toya:町田ほか、1987)の混在も示唆される。Toyaの噴出年月は、11万2000～11万5000年とされている(町田・新井、2003)。

<table>
<thead>
<tr>
<th>試料No.</th>
<th>原始名</th>
<th>圧力</th>
<th>最小ガラス</th>
<th>最大ガラス</th>
<th>中間ガラス</th>
<th>最小ガラスの</th>
<th>最大ガラスの</th>
<th>テフラ</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
<td>3</td>
</tr>
<tr>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
<td>6</td>
</tr>
<tr>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
<td>7</td>
</tr>
<tr>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
<td>8</td>
</tr>
</tbody>
</table>

表1 テフラ分析結果

文献

図1 輪石・火山ガラスの屈折率
7. 火山ガラス（5号土坑東側トレンチ土層地点C層シルト質）
8. 鹽石（5号土坑東側トレンチ土層地点D層砂）

9. 火山ガラス（5号土坑東側トレンチ土層地点D層砂）
10. 火山ガラス（5号土坑東側トレンチ土層地点E層上部付近）

11. 火山ガラス（5号土坑東側トレンチ土層地点E層上部付近）
12. 崩石（5号土坑埋土最上位）

Opx: 斜方輝石, Veg: 火山ガラス,Qtz: 石英,Pl: 斜長石

<table>
<thead>
<tr>
<th></th>
<th>2.0mm</th>
<th>0.2mm</th>
<th>1.0mm</th>
<th>1.0mm</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>8</td>
<td>7.9,11</td>
<td>12</td>
<td>10</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

図版1 テフラ（2）
写真図版
写真図版2 基木層序

基本層序A地点（西から）

基本層序B地点（北から）
写真図版 4 2号炭窯
写真図版5   1・2号焼土   1・2号陥し穴状遺構
写真図版 6  3～6号踏し穴状造構
写真図版 8  11 ～ 14号隠し穴状遺構
写真図版9 15～18号隠し穴状遺構
写真図版 10 19～22号脅し穴状造構
写真図版 15 39～42号隠し穴状透構
47号焼成状態 検出土況（東から）

47号焼成状態 断面（北から）

47号焼成状態 全景（北から）
写真図版 20 50～53号竪穴状遺構
写真図版 21 54～57号陥し穴状遺構
写真図版 23  62～65号陥し穴状道構
写真図版 27 5号土坑
写真図版 28 6号土坑
7号土坑 全景 (南東から)
7号土坑 断面 (南東から)
7号土坑 剖穴断面 (南から)

写真図版 29 7号土坑
写真図版 33 14号土坑
写真図版35 17号土坑
写真図版 37 検出状況・作業風景
写真図版 38 出土遺物（1）
写真回版 30 出土遺物（2）
写真図版 41 出土遺物（4）
## 報告書抄録

<table>
<thead>
<tr>
<th>ふりがな</th>
<th>所有者名</th>
<th>ふりがな</th>
<th>所有者名</th>
<th>コード</th>
<th>北緯</th>
<th>東経</th>
<th>調査期間</th>
<th>調査面積</th>
<th>調査事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ふりがな</td>
<td>三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査</td>
<td>ふりがな</td>
<td>三陸沿岸道路建設事業関連遺跡発掘調査</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>シリーズ番号</th>
<th>第714集</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>編著者名</td>
<td>柴田真行・大木勝枝・佐々木あゆみ・森 豊雄・渡辺 修</td>
</tr>
<tr>
<td>編集機関</td>
<td>(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター</td>
</tr>
<tr>
<td>所在地</td>
<td>〒028-0853 岩手県盛岡市下阪岡11地割18番地</td>
</tr>
<tr>
<td>発行年月日</td>
<td>2020年3月13日</td>
</tr>
</tbody>
</table>

### 所有遺跡

<table>
<thead>
<tr>
<th>所有遺跡</th>
<th>種別</th>
<th>主な時代</th>
<th>主な遺物</th>
<th>特記事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>三陸沿岸道路建設事業関連遺跡</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

<table>
<thead>
<tr>
<th>ふりがな</th>
<th>所有遺跡</th>
<th>ふりがな</th>
<th>所有遺跡</th>
<th>コード</th>
<th>北緯</th>
<th>東経</th>
<th>調査期間</th>
<th>調査面積</th>
<th>調査事項</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>ふりがな</td>
<td>三陸沿岸道路建設事業関連遺跡</td>
<td>ふりがな</td>
<td>三陸沿岸道路建設事業関連遺跡</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

| | | | | | | | | | |

### 要約
丘陵地の網谷部に位置する遺跡である。遺構は線形に十形中頚部を含む前方突き上げのある円形前方突出部遺構と、後方の線形前方突出部遺構が検出された。線形前方突出部遺構は前後片に配置される部分がある。出土遺物では片刃に自転車を兼ね打製石器が多数出土している。
サンニャ三遺跡発掘調査報告書
三浦沿岸遺跡発掘調査

印刷 令和2年3月10日
発行 令和2年3月13日

編集 共同芸術振興事業団埋蔵文化財センター
〒020-0853 岩手県盛岡市下飯岡11地割185番地
電話 (019)688-9001

発行 国土交通省東北地方整備局三陸国道事業所
〒020-0029 岩手県宮古市薬の川4番1号
電話 (019)62-1711

印刷 株式会社 光文社
〒020-0106 岩手県盛岡市東松園3-12-1
電話 (019)661-3441

© (公財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 2020